DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-1610

取扱説明書

※本書の操作説明に使っているボタンのイラストはリモコンのものです。
本体パネルの同じ名前のボタンでも操作できます。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。詳しくは、「保証と修理について」(☞60 ページ)をご覧ください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水をかけたり、濡らしたりしない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ご使用になる前に

接続のしかた

設定のしかた

再生のしかた

本機の設定状態や入力信号の情報などを確認する（Information） 45

便利な機能

リモコンで接続した機器を操作する

その他の情報 51

故障かな？と思ったら 57

保障と修理について 60

主な仕様 61

再生までのながれ

本機の再生までのながれは、次の順番でおこなってください。

接続

スピーカーを設置 / 設定する（☞13 ページ）

⇩

スピーカーを接続する（☞14 ページ）

⇩

機器を接続する（☞15 ページ）

⇩

電源を入れる（☞19 ページ）

設定

オートセットアップ（☞22 ページ）

⇩

（**マニュアルセットアップ**（☞27 ページ））

⇩

入力の設定（☞33 ページ）

再生

機器を再生する（☞37 ページ）

⇩

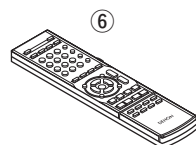
サラウンドモードを選ぶ（☞39 ページ）

⇩

音場効果を調節する（☞41 ページ）

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）..1
② 簡単セットアップガイド 1
③ 保証書（梱包箱に貼付）.. 1
④ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内............ 1
⑤ 電源コード（長さ：約 1.7m）【本機専用】..................1
⑥ リモコン（RC-1120）...1
⑦ 単 4 形乾電池...2
⑧ セットアップマイク
（DM-A409、コードの長さ：約 7.6m）........................1

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

準備

使用上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でご使用ください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

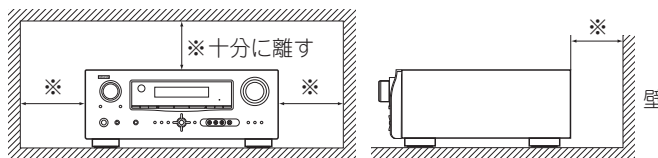
結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部やレンズ）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を入れたまま1～2時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

リモコンに乾電池を入れる

付属のリモコン（RC-1120）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。

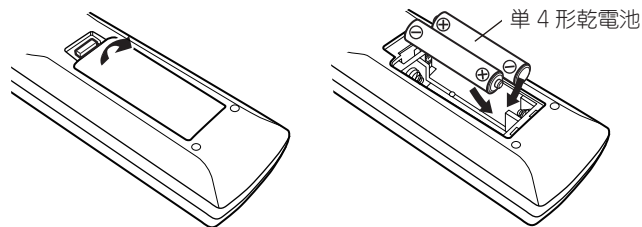
① DENON 製コンポーネント製品

② DENON 製以外のコンポーネント製品

DENON 製以外のコンポーネント製品を操作する場合には、プリセットコードの登録が必要です（☞48 ページ「プリセットコードを登録する」）。

乾電池の入れかた

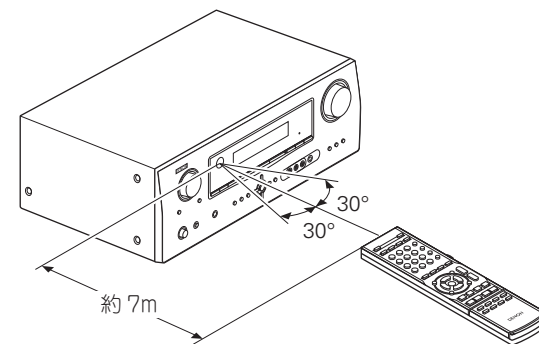
① つまみを引き上げながら、裏ぶたを取り外す。

② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

ご注意

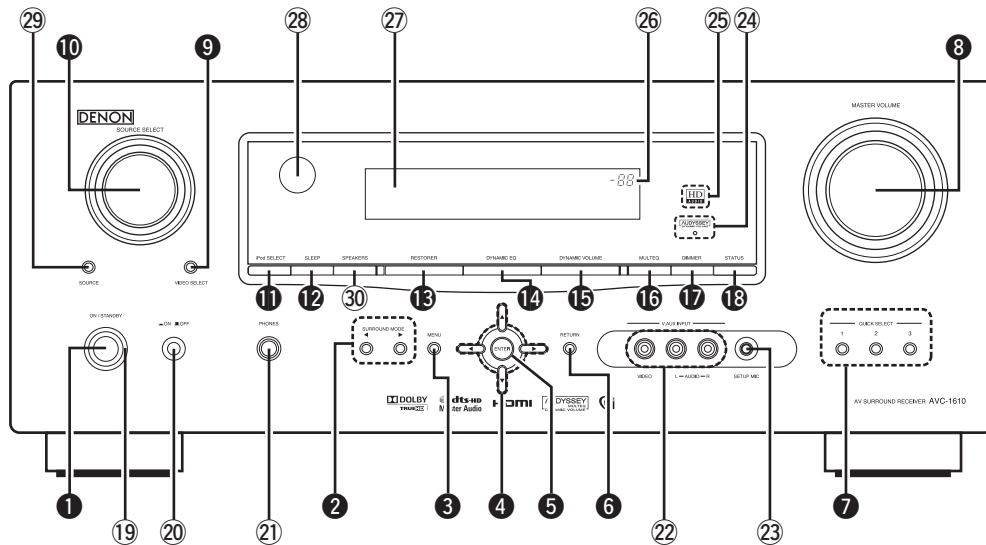
- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

各部の名前

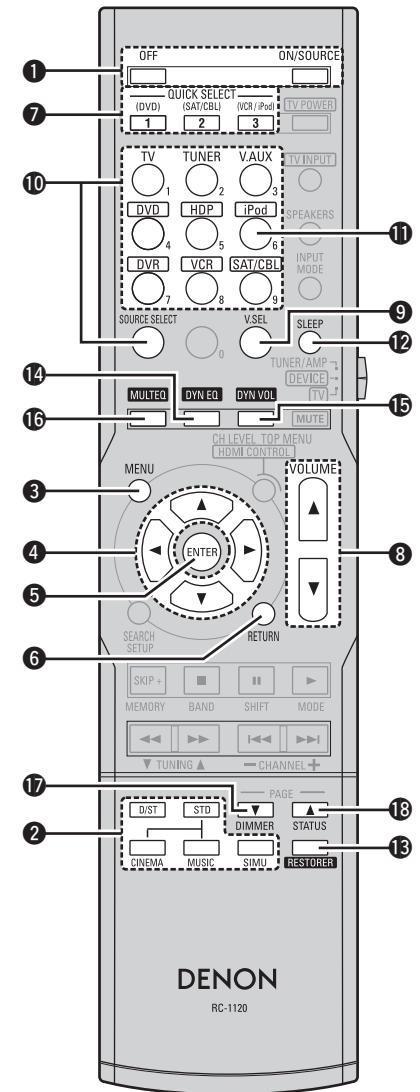
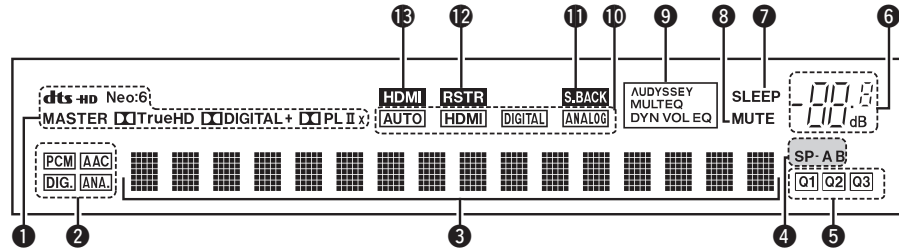
フロントパネル

本体のみにあるボタン・端子・表示

詳しい説明については、( ) 内のページを参照してください。

⑲ 電源表示 ……(19)
⑳ 電源スイッチ ……(19、59)
㉑ ヘッドホン端子 ……(39)
㉒ V.AUX 入力端子 ……(19)
㉓ セットアップマイク端子 ……(23)
㉔ Audyssey Dynamic Volume 表示 ……(44)
㉕ HD AUDIO 表示 ……(40)
㉖ 主音量およびメニュー番号表示
㉗ ディスプレイ
㉘ リモコン受光部 ……(6)
㉙ ソースモード切り替えボタン ……(37)
㉚ フロントスピーカー切り替えボタン ……(39)

リモコンと同じはたらきをするボタン

次のボタンは、本体とリモコンの両方にあります。

❶ 電源ボタン ……(16)
❷ サラウンドモード切り替えボタン ……(39)
❸ メニューボタン ……(20)
❹ カーソルボタン ……(20)
❺ エンターボタン ……(20)
❻ リターンボタン ……(20)
❼ クイックセレクトボタン ……(47)
❽ 主音量調節つまみ ……(37)
❾ ビデオセレクトボタン ……(46)
❿ 入力ソース切り替えつまみ ……(37)
⓫ iPod ファンクションボタン ……(37)
⓬ スリープタイマーボタン ……(46)
⓭ RESTORER ボタン ……(45)
⓮ Dynamic EQ ボタン ……(43)
⓯ Dynamic Volume ボタン ……(44)
⓰ MULTEQ ボタン ……(43)
⓱ DIMMER ボタン ……(39)
⓲ 状態表示ボタン ……(45)

ディスプレイ

❶ **デコーダー表示**
動作中のデコーダーを点灯します。

❷ **入力音声信号表示**

❸ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サラウンドモードおよび設定値などの情報を表示します。

❹ **フロントスピーカー表示**
フロントスピーカー A、B の設定に合わせて点灯します（☞39 ページ）。

❺ **クイックセレクト表示**
クイックセレクト機能が設定されているときに点灯します（☞47 ページ）。

❻ **主音量表示**
設定操作中は、メニュー番号を表示します。

❼ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーの動作中に点灯します（☞46 ページ）。

❽ **ミュート表示**
ミューティング中に点灯します（☞39 ページ）。

❾ **AUDYSSEY 表示**
各モード時に次のように表示します（☞43 ページ）。

AUDYSSEY MULTEQ　“MultEQ” の動作中

AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ　“MultEQ”、“Dynamic EQ”、の動作中

AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL　“MultEQ”、“Dynamic EQ”、“Dynamic Volume”の動作中

※ オートセットアップ後に、スピーカー設定を変えると表示の枠が消灯するか、すべての表示が消灯します。

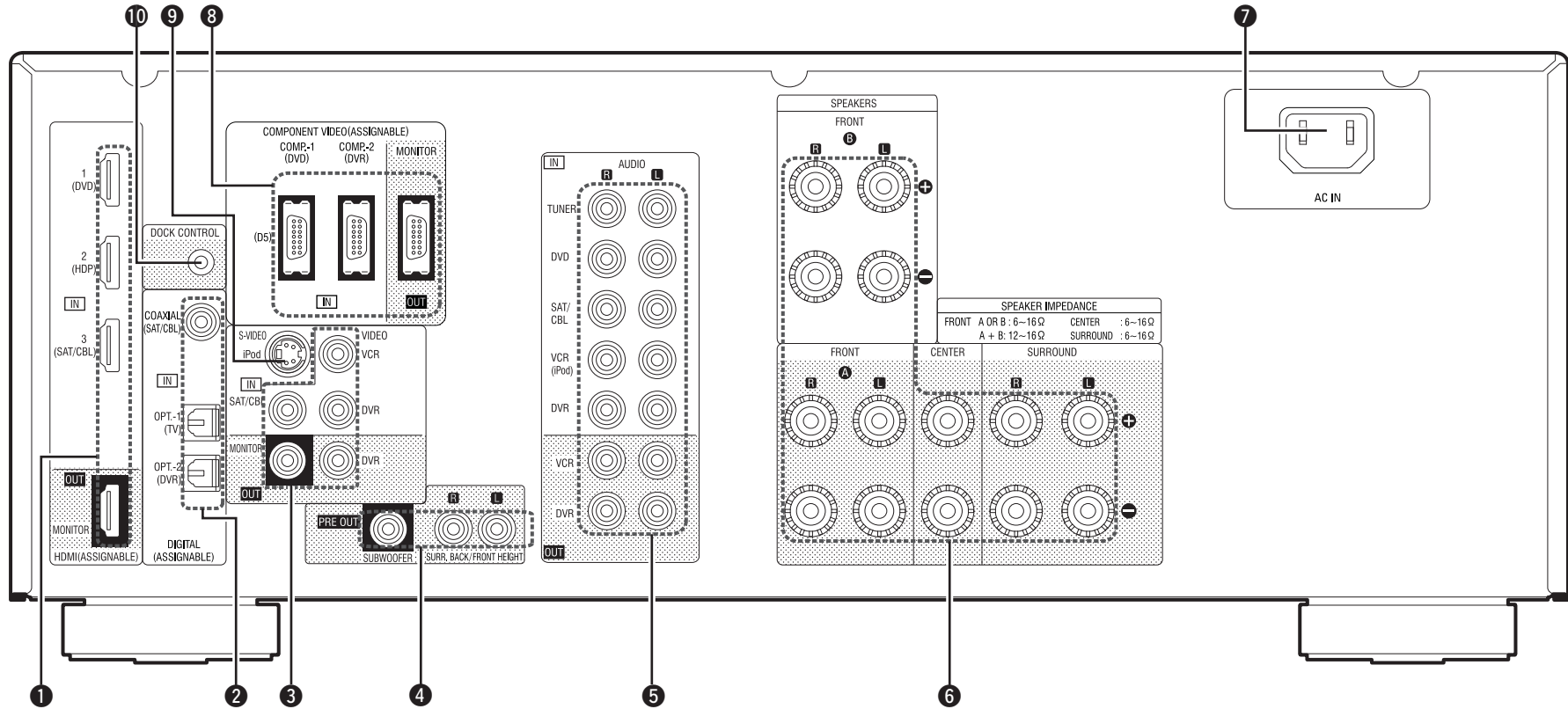
❿ **入力モード表示**

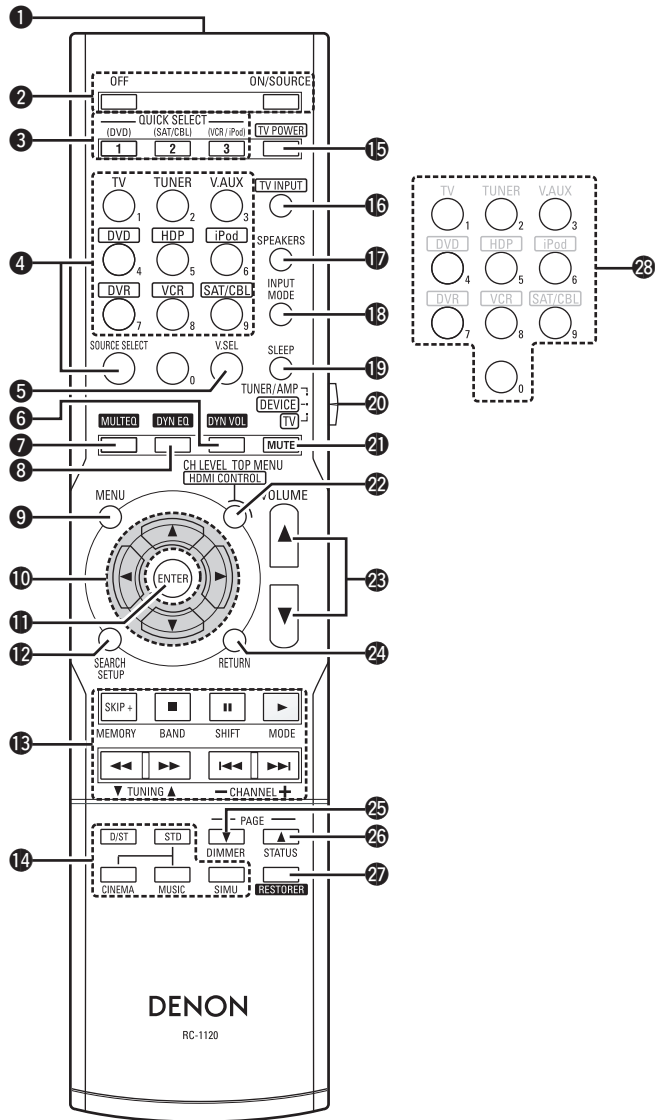
⓫ **サラウンドバック表示**
SURR.BACK / FRONT HEIGHT 音声出力端子からサラウンドバック音声を出力しているときに点灯します（☞28 ページ）。

⓬ **RESTORER 表示**
RESTORER の動作中に点灯します（☞45 ページ）。

⓭ **HDMI 表示**
HDMI 入力信号を検出しているときに点灯します（☞15 ページ）。

リアパネル

詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

❶ HDMI 端子……………………………（16）
❷ デジタル音声端子……………………（18）
❸ 映像端子………………………………（18）
❹ プリアウト端子 ………………………（14）
❺ アナログ音声端子……………………（17）
❻ スピーカー端子 ………………………（14）
❼ AC インレット ………………………（19）
❽ コンポーネント / D5 映像端子 ………（17）
❾ iPod ドック用 S 映像入力端子………（17）
❿ iPod ドック用コントロール端子 ……（17）

リモコン

❶ リモコン信号送信部
❷ 電源ボタン ··········· (16)
❸ クイックセレクトボタン ··········· (47)
❹ 入力ソース選択ボタン ··········· (37)
❺ ビデオセレクトボタン ··········· (46)
❻ Dynamic Volume ボタン ··········· (44)
❼ MultEQ ボタン ··········· (43)
❽ Dynamic EQ ボタン ··········· (43)
❾ メニューボタン ··········· (20)
❿ カーソルボタン ··········· (20)
⓫ エンターボタン ··········· (20)
⓬ サーチボタン ··········· (38)
⓭ システムボタン ··········· (48)
⓮ サラウンドモード切り替えボタン ····· (39)
⓯ TV 用電源ボタン ··········· (49)
⓰ TV 用入力切り替えボタン ··········· (49)
⓱ フロントハイトスピーカー
切り替えボタン ··········· (42)
⓲ 入力モード切り替えボタン ··········· (35)
⓳ スリープタイマーボタン ··········· (46)
⓴ デバイス選択スイッチ ··········· (37、48)
㉑ ミューティングボタン ··········· (39)
㉒ チャンネルレベル調節ボタン ··········· (47)
㉓ 主音量調節ボタン ··········· (37)
㉔ リターンボタン ··········· (20)
㉕ DIMMER ボタン ··········· (39)
㉖ 状態表示ボタン ··········· (45)
㉗ RESTORER ボタン ··········· (45)
㉘ 数字ボタン ··········· (48)

詳しい説明については、( ) 内のページを参照してください。

リモコンでできること

❑ 本機の操作

❑ 本機以外の 6 つの機器の操作

あらかじめ、操作する機器のリモコンコードをプリセットしてください（☞48 ページ）。

① 操作する機器に合わせて、デバイス選択スイッチを切り替えます。
② 操作する機器の入力ソース選択ボタンを押します。
※ 詳しい操作のしかたは、「登録した機器を操作する」（☞48 ページ）をご覧ください。

① デバイス選択スイッチ	② 入力ソース選択ボタン	操作できる機器
TUNER/AMP	–	本機、チューナー
DEVICE	DVD	DVD プレーヤーまたは CD プレーヤー
	HDP	ブルーレイディスク プレーヤー
	iPod	iPod（DENON）
	DVR	デジタルビデオレコーダー
	VCR	ビデオデッキ
	SAT/CBL	衛星チューナーまたは ケーブルテレビ
TV	–	テレビ

❑ パンチスルー設定（☞50 ページ）

接続のしかた

❏ 接続のながれ

スピーカーを設置 / 設定する（☞13 ページ）

スピーカーを接続する（☞14 ページ）

機器を接続する

- ❏ **HDMI 端子付きの機器を接続する**（☞15 ページ）
  - 知っておいてほしいこと（☞15 ページ）
  - 接続のしかた（☞16 ページ）
  - HDMI 接続に関する設定（☞16 ページ）
  - 入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）（☞12 ページ）
  - 映像入力信号による画面表示のしかた（☞12 ページ）
- ❏ **HDMI 端子のない機器を接続する**（☞16 ページ）
  - モニター（テレビ）を接続する（☞16 ページ）
  - 再生機器を接続する（☞17 ページ）
  - レコーダーを接続する（☞18 ページ）
  - TV チューナー / ケーブルテレビを接続する（☞18 ページ）
  - その他の機器を接続する（☞19 ページ）
- ❏ **電源コードを接続する**（☞19 ページ）

電源を入れる（☞19 ページ）

知っておいてほしいこと

この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法をお選びください。

接続後に、本機の設定が必要なものがあります。各項目の“必要に応じて設定してください”の設定をおこなってください。

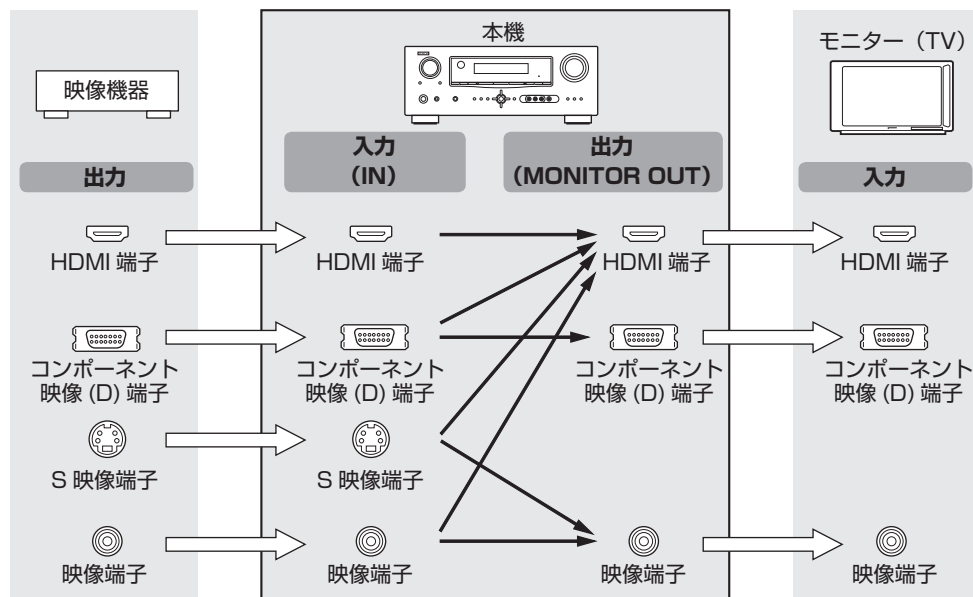
ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 接続するチャンネルを確かめてから、入力と出力のチャンネルを正しく接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードや接続ケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

接続に使用するケーブルについて

ご使用になる機器に合わせて、ケーブル（別売り）をご用意ください。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には 4 種類（HDMI、D 端子、S 映像、映像）の映像入出力端子と 3 種類（HDMI、D 端子、映像）の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせてご使用ください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からモニターに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- HDMI 対応テレビの解像度は、"HDMI Monitor Information"（☞45 ページ）で確認することができます。

ご注意

- S 映像端子は iPod 用コントロールドックの専用端子です。iPod の入力ソースに割り当てられた端子に、iPod 用コントロールドックが接続されているときに使用できます。
- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。

映像入力信号による画面表示のしかた

メニューや状態の画面表示のしかたは、本機に入力される映像信号の種類によって異なります。

HDMI 端子またはコンポーネント映像（D）端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：黒背景の画面に切り替わり、メニューを重ねて表示します。（※）
- **状態表示**：表示しません。

※：再生中の映像にメニューを重ねて表示したいときは、映像端子にも同じ映像を入力してください。メニューを表示すると映像端子から入力している映像に切り替わってメニューを重ねて表示します。

ご注意

コンポーネント映像端子の映像には、メニューおよび状態表示の画面を表示しません。表示させたい場合は映像端子も一緒に接続してください。

S 映像端子または映像端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：再生中の映像にメニューを重ねて表示します。
- **状態表示**：表示します。

❑ 画面表示の例

- メニュー画面

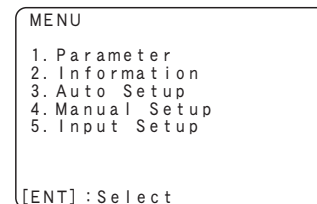
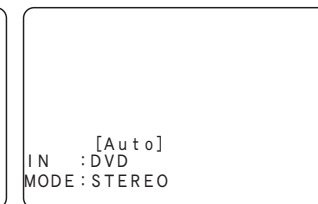
```
MENU

1.Parameter
2.Information
3.Auto Setup
4.Manual Setup
5.Input Setup

[ENT]:Select
```

- 状態表示画面

入力ソース切り替え時

```
     [Auto]
IN   :DVD
MODE:STEREO
```

音量調節時

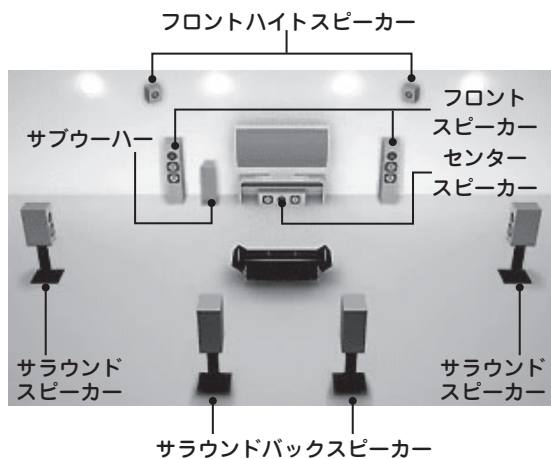
```
Master Volume -80.0dB
```

状態表示：入力ソースの切り替えや音量の調節時に一時的に画面に操作状態を表示します。

スピーカーを設置 / 設定する

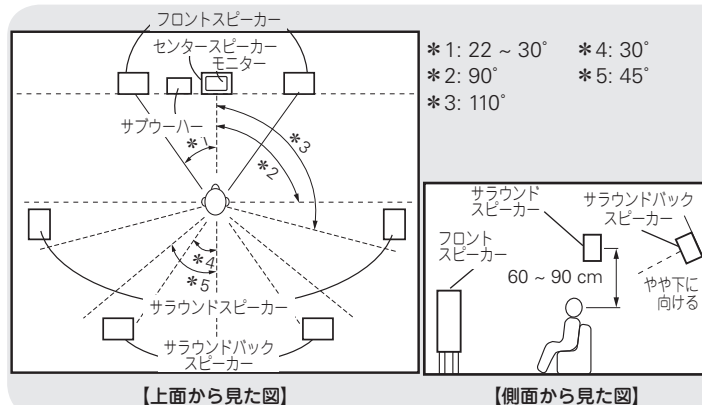
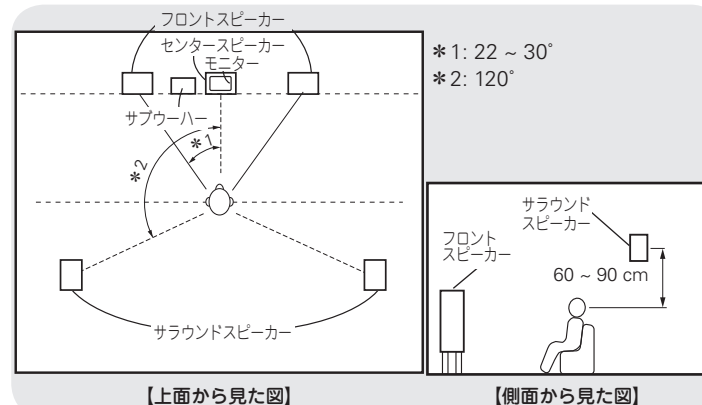
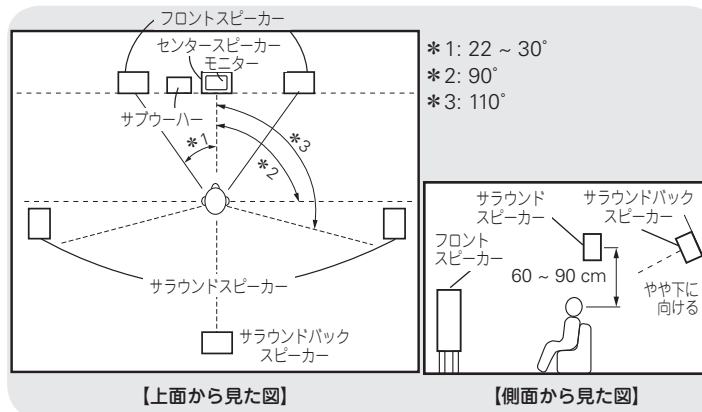
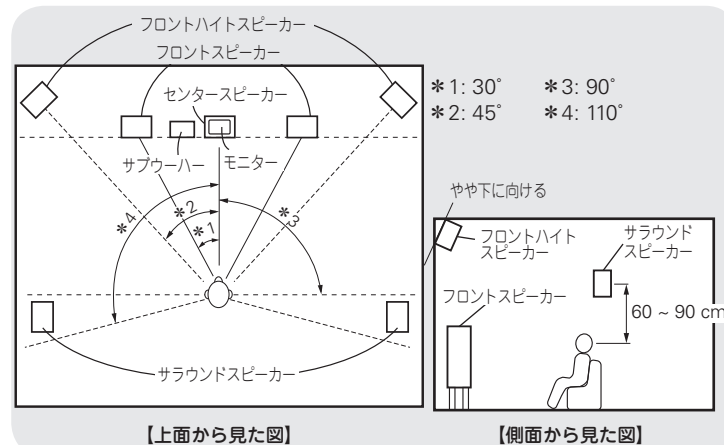
- 本機はいろいろなバリエーションのサラウンド再生に対応しています。
- 再生するサラウンドモードを決めてから接続と設定をおこなってください。

1 スピーカーレイアウトを決めてください

スピーカーの設置例をご紹介します。これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて設置してください。

すべてのスピーカーの配置のしかた

ご注意

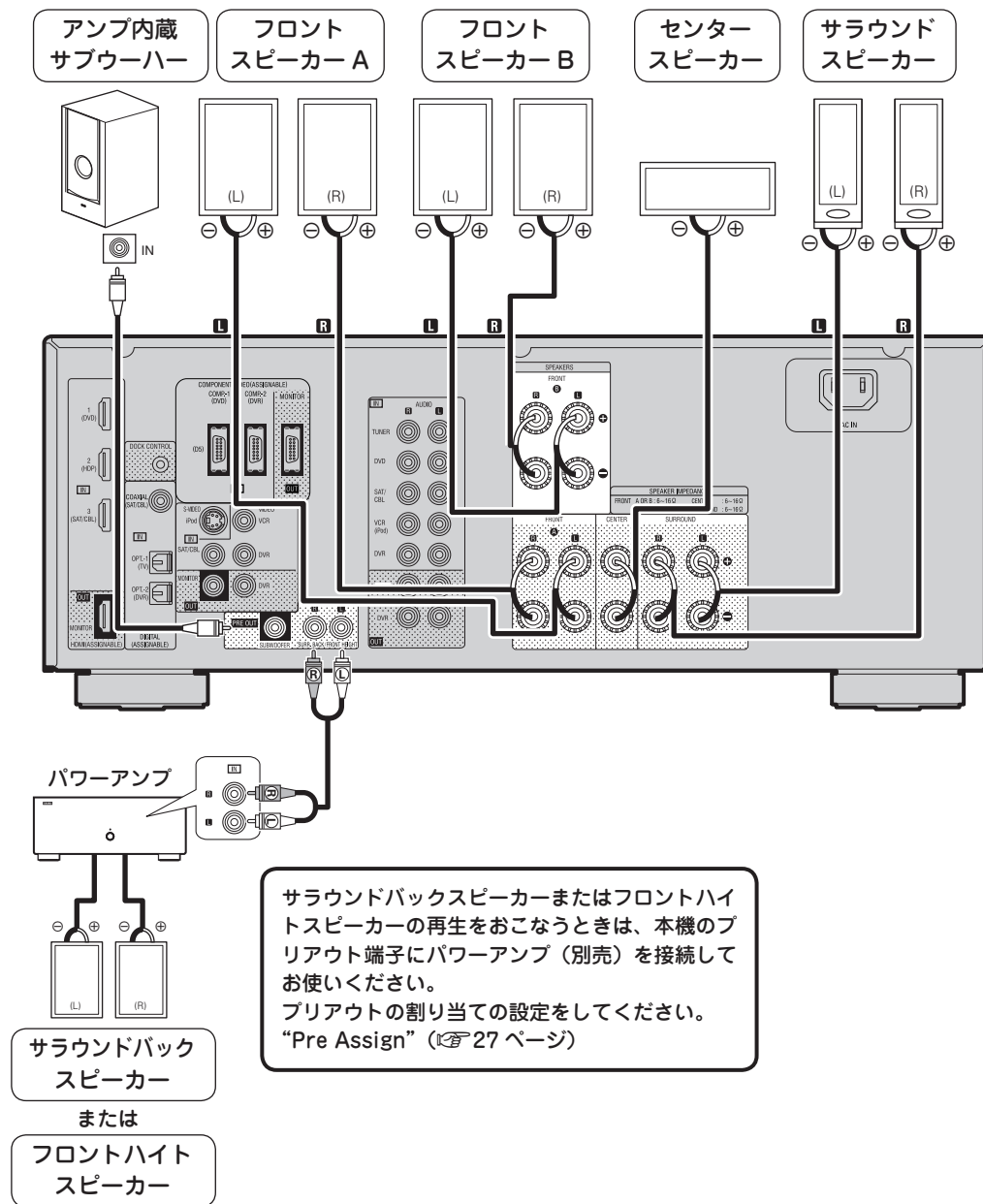
- フロントハイトスピーカーとサラウンドバックスピーカーを、同時に使用することはできません。
- サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイトスピーカーの再生をおこなうときは、本機のプリアウト端子にパワーアンプ（別売）を接続してお使いください。

❑ 7.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続時

❑ 5.1 チャンネル接続時

❑ 6.1 チャンネル接続時

❑ 7.1 チャンネル（フロントハイトスピーカー）接続時

2 スピーカーレイアウトに合わせて“Pre Assign”モードを設定してください

本機の SURR. BACK / FRONT HEIGHT ASSIGN プリアウト端子から出力する信号を、お使いになるサラウンドモード用の信号に切り替えて出力することができます（☞27 ページ「プリアサイン」）。

プリアサインモード（☞27 ページ）	SURR. BACK / FRONT HEIGHT プリアウト端子から出力する音声を再生するスピーカー	スピーカー設置例
Normal	サラウンドバックスピーカー	(7.1)
Normal	サラウンドバックスピーカー ※プリアウト端子の“L”に接続してください。 ※“S.Back (Pre out)”（☞28 ページ）の設定を“1ch”にしてください。	(6.1)
Normal	接続しません ※“S.Back (Pre out)”（☞28 ページ）の設定を“None”にしてください。	(5.1)
Front Height	フロントハイトスピーカー	(7.1)

スピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイトスピーカーの再生をおこなうときは、本機のプリアウト端子にパワーアンプ（別売）を接続してお使いください。
プリアウトの割り当ての設定をしてください。
“Pre Assign”（☞27 ページ）

スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじる。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子を右に回してしめる。

❑ バナナプラグをご使用になる場合

スピーカー端子を右に回してしめてから、バナナプラグを差し込む。

インピーダンスが 6 ～ 16 Ωのスピーカーをご使用ください。また、フロントスピーカー A と B を同時にご使用になる場合は、12 ～ 16 Ωのスピーカーをご使用ください。

ご注意

- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します（☞「保護回路について」）。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作して電源表示が約 0.5 秒間隔で赤色に点滅します。
保護回路が動作するとスピーカー出力は遮断され、電源はスタンバイ状態になります。この場合は、電源を切るか電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。
また、指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：4 Ω）を使用して大音量で再生すると、本機の温度が上昇して保護回路が動作する場合があります。電源はスタンバイ状態になり、電源表示が約 2 秒間隔で赤色に点滅します。この場合は、電源を切って、周囲の通風状態を良くして、本機が冷えるのをお待ちください。
周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で当社の修理相談窓口にご連絡ください。

機器を接続する

HDMI 端子付きの機器を接続する

知っておいてほしいこと

❑ HDMI について

HDMI とは、"High Definition Multimedia Interface"の略で、デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。

"HDMI"、"HDMI ロゴ"および"High-Definition Multimedia Interface"は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

❑ HDMI 接続でできること

Deep Color
微小な映像データを増やすことで、色の変化をより滑らかにして、異なる色彩間の微妙なグラデーションを表現することが可能になります。

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。"x.v.Color"はソニーの商標登録です。

Auto Lip Sync（☞30 ページ）
HDMI 1.3 対応機器には、自動的に映像と音声の同期をおこなう機能を内蔵しており、正確な同期処理をおこなうことができます。

HDMI コントロール機能（☞30、46 ページ）
外部機器を本機で操作したり、外部機器から本機を操作したりします。

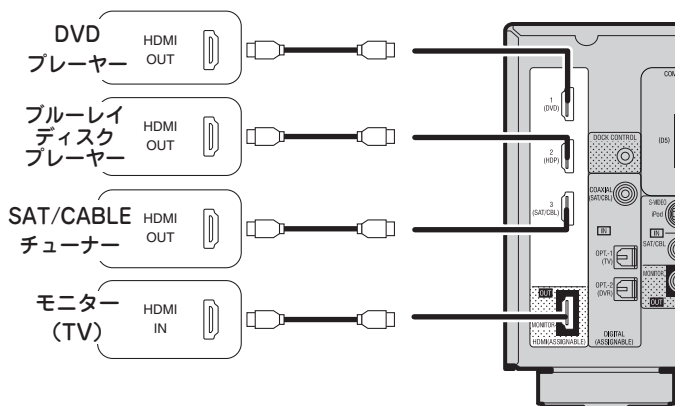
ご注意 HDMI 接続している機器が Deep Color や x.v.Color の伝送、および Auto Lipsync 機能に対応していないときは、それらの機能ははたらきません。

❑ 著作権保護について

本機は HDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）に対応しています。HDCP とは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。本機と接続する機器も HDCP に対応していることが必要です。

ご注意 HDCP に対応していない機器と接続すると、映像が正しく出力されません。

接続のしかた

本機は 3 台までの HDMI 機器からの入力と、1 台のテレビへの出力に対応しています。

- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴのついたケーブル（HDMI 認証品）をご使用ください。HDMI ロゴのないケーブル（HDMI 非認証品）をご使用になると、正しく再生できない場合があります。
- 本機と各機器を HDMI ケーブルで接続したときは、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color 伝送に対応している機器を接続する場合は、HDMI ver.1.3a 対応のケーブルをご使用ください。
- ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの解像度は、テレビが対応している解像度に合わせてください。ブルーレイディスク /DVD プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合は、映像が出力されません。

ご注意

- "HDMI Audio Out"（☞30 ページ）の設定が "Amp" のときにテレビの電源を切ると、音声が途切れる場合があります。
- HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

❏ DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

- DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

❏ HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは各参照ページをご覧ください。

入力端子の割り当て（☞34 ページ）
各端子の入力ソースを変更するときに設定します。

HDMI の設定（☞30 ページ）
HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- オートリップシンク
- オーディオアウト
- HDMI コントロール
- スタンバイソース
- パワーオフコントロール

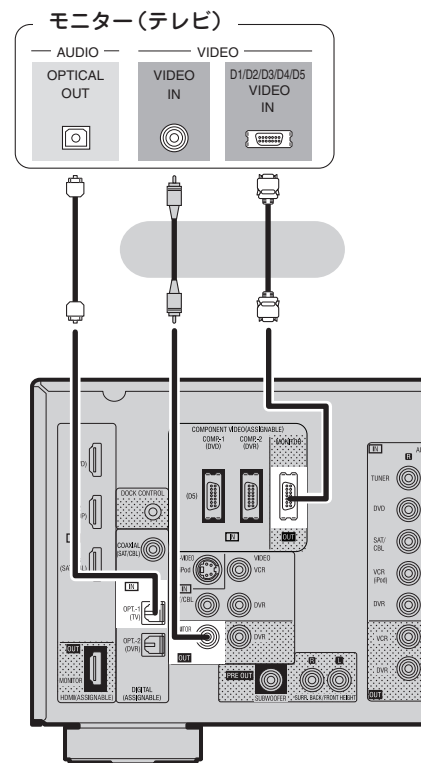
ご注意

デジタル音声入力端子などから入力された音声信号を、HDMI 接続したテレビから出力することはできません。

HDMI 端子のない機器を接続する

モニター（テレビ）を接続する

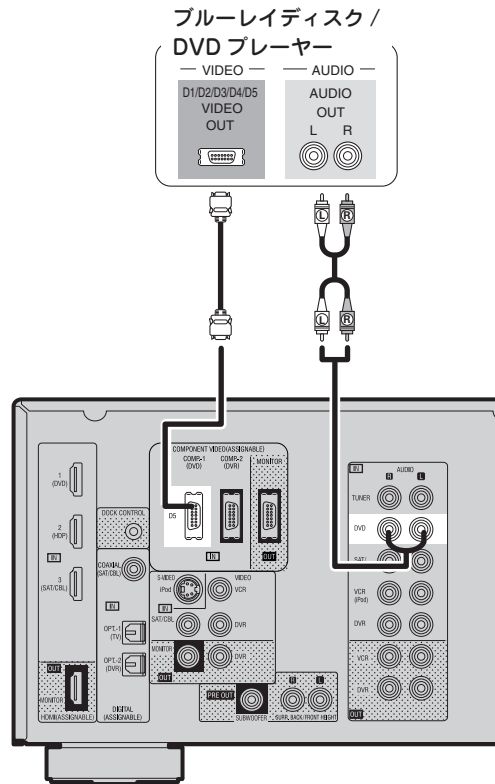
- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- 映像の接続については、「入力された映像信号を変換して HDMI 出力端子から出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞12 ページ）をご覧ください。

HDMI 接続については 15 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

- テレビによってコンポーネント（D）端子の表示が異なります。
- 本機のコンポーネント（D）端子は、D1 〜 D5（480i、480p、1080i、720p、1080p）の映像端子に対応しています。
- 本機のコンポーネント（D）端子とテレビをコンポーネント変換ケーブルで接続した場合、コンポーネント（D）端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

再生機器を接続する

ブルーレイディスク /DVD プレーヤー

ご使用になる端子を選んで接続してください。

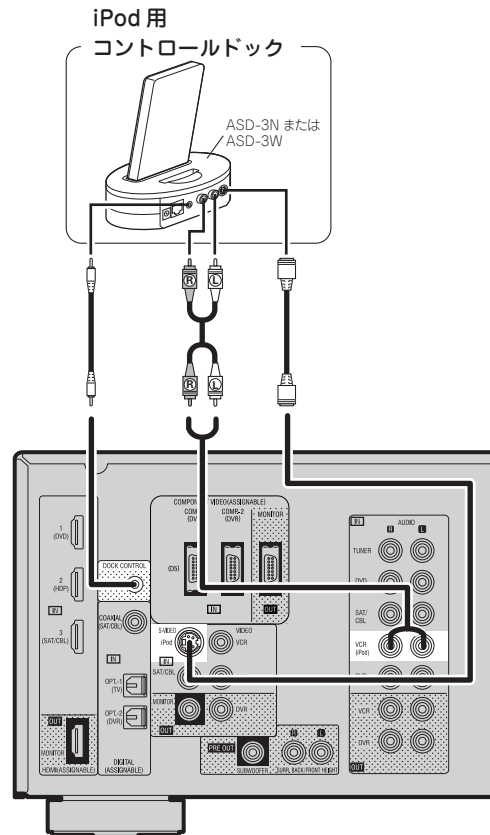
HDMI 接続については 15 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Assign"（☞34 ページ）

ご注意

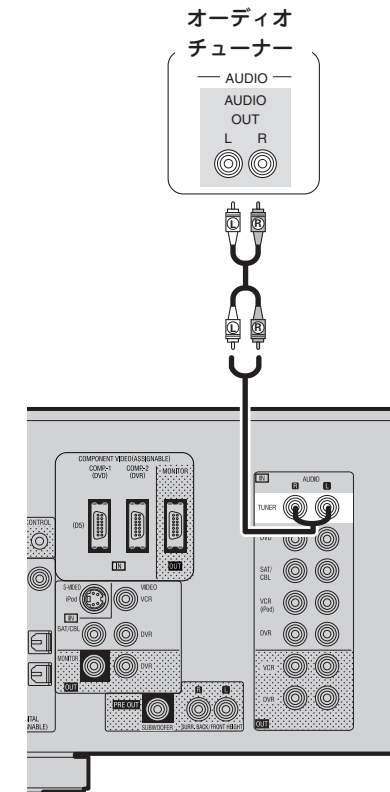
ブルーレイディスクプレーヤーで HD オーディオ（ドルビー TrueHD、DTS-HD およびドルビーデジタルプラス）の音声を再生する場合は、HDMI で接続してください。

iPod® 用コントロールドック

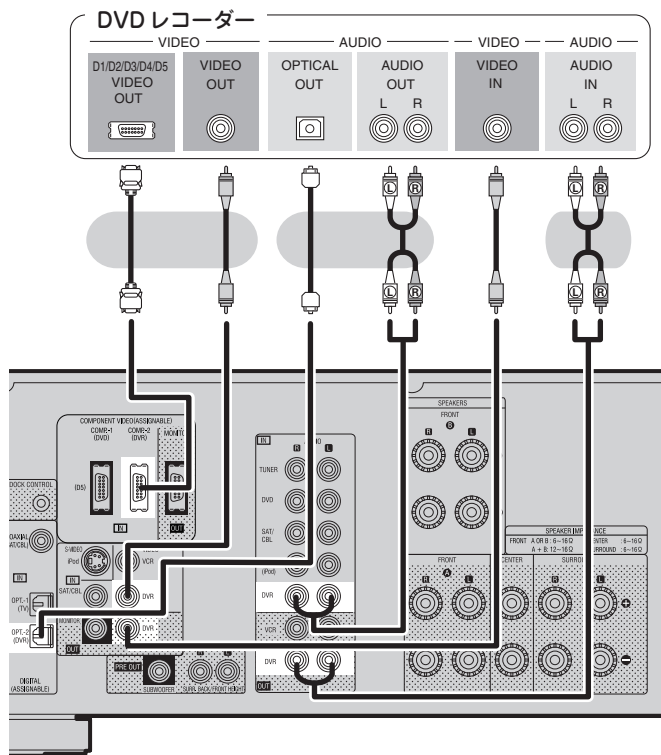
本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）をご使用ください。この場合、iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

必要に応じて設定してください

iPod を VCR（iPod）端子以外に割り当てるときに設定します。
"iPod Dock"（☞34 ページ）

お買い上げ時の設定では、iPod を VCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。

オーディオチューナー

レコーダーを接続する

DVD レコーダー

ご使用になる端子を選んで接続してください。

HDMI 接続については 15 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

DVD レコーダー

VIDEO: D1/D2/D3/D4/D5 VIDEO OUT / VIDEO OUT
AUDIO: OPTICAL OUT / AUDIO OUT L R
VIDEO: VIDEO IN
AUDIO: AUDIO IN L R

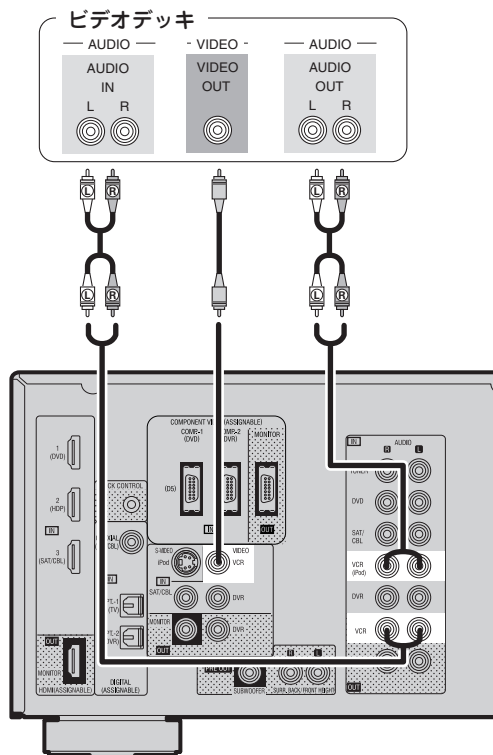
必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Assign"（☞34 ページ）

ご注意

- 本機を通して録画するときは、本機と再生機器の接続と、本機とレコーダーの接続に、同じ種類の映像ケーブルをご使用ください。
- デジタル入力信号は、アナログの REC OUT 端子から出力されません。

ビデオデッキ

ご使用になる端子を選んで接続してください。

HDMI 接続については 15 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

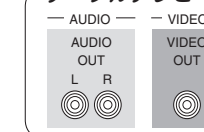
入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Assign"（☞34 ページ）

ご注意

- 本機を通して録画するときは、本機と再生機器の接続と、本機とレコーダーの接続に、同じ種類の映像ケーブルをご使用ください。
- デジタル入力信号は、アナログの REC OUT 端子から出力されません。

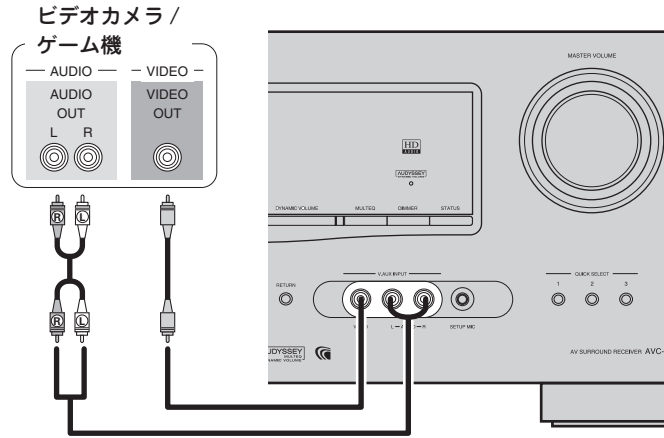
TV チューナー / ケーブルテレビを接続する

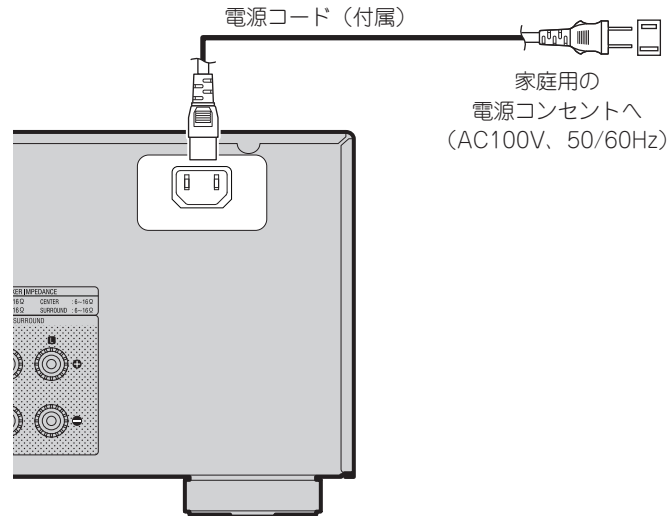
ご使用になる端子を選んで接続してください。

HDMI 接続については 15 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"Assign"（☞34 ページ）

その他の機器を接続する

ビデオカメラ / ゲーム機

電源コードを接続する

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

ご注意

電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。

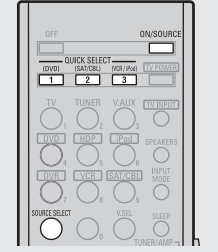
接続が終わったら

電源を入れる

1 本体の ON/OFF を押す。

電源表示が赤色に点灯して、電源がスタンバイ状態になります。

2 ON/SOURCE を押す。

電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

※スタンバイ状態のときに、QUICK SELECT (DVD) 1 (SAT/CBL) 2 (VCR / iPod) 3 を押しても、電源が入ります。

SOURCE SELECT を押した場合は、SOURCE SELECT で選択した入力ソースになります。

また、QUICK SELECT (DVD) 1 (SAT/CBL) 2 (VCR / iPod) 3 を押した場合は、クイックセレクト機能に記憶させた入力ソースになります（☞47 ページ「よく使うモードの設定を記憶させる（クイックセレクト機能）」）。

本体の QUICK SELECT 1 2 3 を押しても操作ができます。

電源を切る

1 OFF を押す。

電源がスタンバイ状態になります。

2 本体の ON/OFF を押す。

電源表示が消灯して、電源が切れます。

ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、本体の ON/OFF を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

設定のしかた

本機では、ほとんどの設定をテレビ画面に表示されたメニューでおこなうことができます。

メニュー一覧

❑ 操作手順

1 MENU ○ **を押す。**
設定メニュー画面を表示します。

⇨

2 **△▽ で項目を選び、ENTER を押す。**

⇨

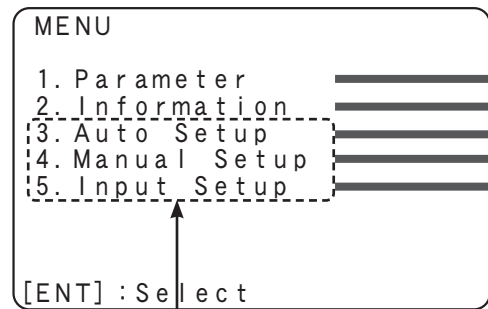
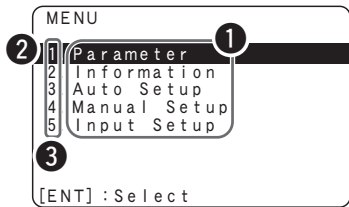
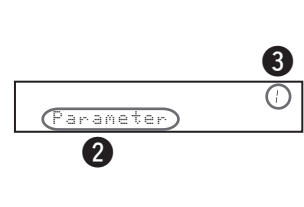
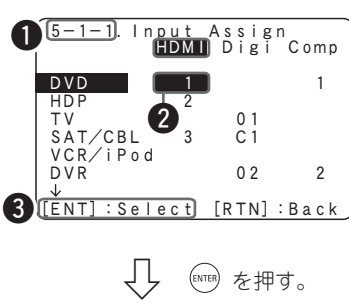
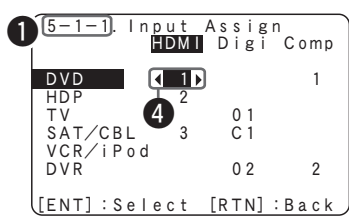
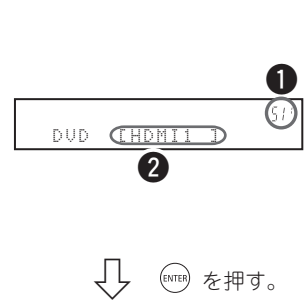
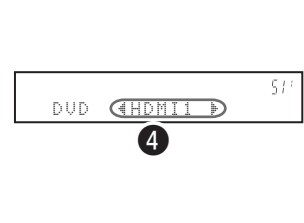
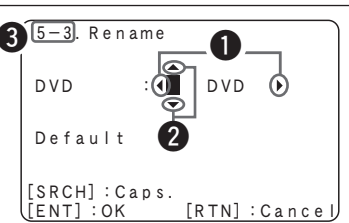
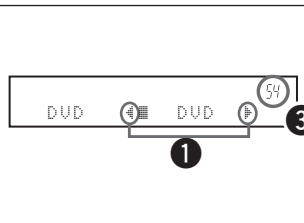
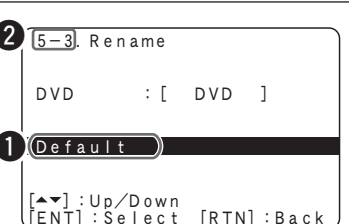
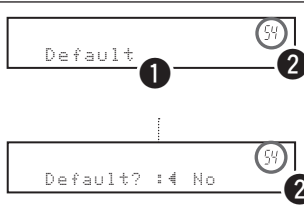
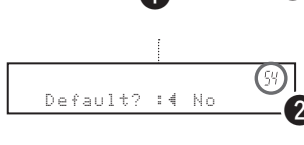
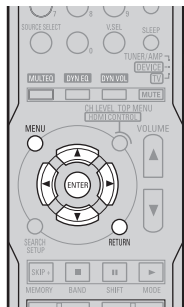
3 **△▽ で項目を選び、ENTER を押す。**

⇨

4 **△▽ で項目を選び、ENTER で設定を確定する。**
※ 前の設定項目に戻る場合は、RETURN ○ を押してください。
※ "Default Yes" を選んだ後に ENTER を押すと、お買い上げ時の設定になります。

⇨

5 MENU ○ **を押す。**
メニュー表示が消えます。

❑ 設定メニュー

一度だけ設定すればよい項目

お買い上げ時などに設定してください。
一度設定していただくと、接続するスピーカーやスピーカーの配置を変更しない限り設定の必要がありません。

設定項目	番号	詳細項目	内　容	参照ページ
1. Parameter 音声のパラメーターを調節します。	1-1	Surround Parameter	音場効果を調節します。	41
	1-2	Tone Control	高音や低音のトーンを調節します。	42
	1-3	Audyssey Settings	MultEQ、Dynamic EQおよびDynamic Volumeを設定します。	43
	1-4	Manual EQ	グラフィックイコライザーを使って各スピーカーの音色を調節します。	44
	1-5	RESTORER	圧縮音声を圧縮前の状態に復元し、低域の量感を補正して豊かに再生します。	45
	1-6	Audio Delay	映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。	45
2. Information 本機の設定状態や入力信号の情報などを表示します。	2-1	Status	現在の設定状態を表示します。	45
	2-2	Audio Input Signal	音声入力信号の情報を表示します。	45
	2-3	HDMI Information	HDMIの入出力信号やテレビの情報を表示します。	45
	2-4	Auto Surround Mode	オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	45
	2-5	Quick Select	クイックセレクト機能で記憶している内容を表示します。	45
3. Auto Setup スピーカーの最適な設定をおこない、部屋の音響特性を補正します。	3-1	Audyssey Auto Setup	ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。	23
	3-2	Parameter Check	オートセットアップの測定結果を確認します。この項目は、オートセットアップ実行後に表示します。	26
4. Manual Setup 各種の詳細設定をします。	4-1	Speaker Setup	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	27
	4-2	HDMI Setup	HDMIの映像/音声出力に関する設定をします。	30
	4-3	Audio Setup	音声の再生に関する設定をします。	31
	4-4	Option Setup	その他の設定をします。	31
5. Input Setup 入力ソースの再生に関する設定をします。	5-1	Assign	入力端子の割り当てを変更します。	34
	5-2	Input Mode	音声の入力モードとデコードモードを設定します。	35
	5-3	Rename	入力ソースの表示名を変更します。	35
	5-4	Source Level	音声入力の再生レベルを補正します。	35
	5-5	iPod Playback Mode	iPodの再生に関する設定をします。	36

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について代表的な例を説明します。

テレビ画面		ディスプレイ	説 明
❑ トップメニューの表示	MENU ❷ 1 Parameter ❶ 2 Information 3 Auto Setup 4 Manual Setup 5 Input Setup ❸ [ENT]:Select	❸ Parameter 1 ❷	❶：メニュー項目を表示します。 ❷：選択中の行を示します。 ディスプレイには選択中の項目を表示します。 設定したい項目に移動するときは、△▽ を押します。 ❸：選択中の設定メニューの番号を表示します。
❑ 設定を変更するときの表示	❶ 5−1−1. Input Assign HDMI Digi Comp DVD 1 1 HDP 2 TV 01 SAT/CBL 3 C1 VCR/iPod DVR 02 2 ↓ ❸ [ENT]:Select [RTN]:Back ⇩ ENTER を押す。 ❶ 5−1−1. Input Assign HDMI Digi Comp DVD ◀ 1▶ 1 HDP 2 TV ❹ 01 SAT/CBL 3 C1 VCR/iPod DVR 02 2 [ENT]:Select [RTN]:Back	❶ DVD [HDMI1] 511 ❷ ⇩ ENTER を押す。 DVD ◀HDMI1 ▶ 511 ❹	❶：現在選択中の設定メニューを表示します。 ❷：設定したい項目に移動するときは、△▽◁ ▷ を押します。 ❸：ENTER を押して選択します。 ❹：設定を変更できる項目には、項目名の両端に“◀ ▶”を表示します。◁ ▷ でお好みの設定に変更できます。
❑ 文字を入力するときの表示	❸ 5−3. Rename ❶ DVD :◀■▶ DVD ▶ Default ❷ [SRCH]:Caps. [ENT]:OK [RTN]:Cancel	DVD ◀■ DVD ▶ 54 ❸ ❶	❶：◁ ▷ を押すと、カーソルが左右に移動します。 ❷：入力したい位置で △▽ を押すと、文字の入力ができます。 ❸：選択中の設定メニューの番号を表示します。
❑ 初期化するときの表示	❷ 5−3. Rename DVD : [DVD] ❶ Default [▲▼]:Up/Down [ENT]:Select [RTN]:Back	Default 54 ❶ ❷ Default? :◀ No 54 ❷	❶：▽ を押して“Default”を選び、ENTER を押して設定します。 ❷：選択中の設定メニューの番号を表示します。

ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう（オートセットアップ）

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。

❑ オートセットアップのながれ

ステップ 1：付属のセットアップマイクを接続する（☞23 ページ）

ステップ 2：オートセットアップの準備（☞23 ページ）

必要なときのみおこなってください。

❑ フロントスピーカーの再生チャンネルを設定する

❑ アンプの割り当てを変更する

ステップ 3：オートセットアップをおこなう（☞24 ページ）

❑ スピーカーの構成を検出する

リスニングルームの騒音、スピーカー接続の有無およびスピーカーの極性を自動的に検出します。

❑ スピーカーの測定をする

ここでは、以下の測定をおこないます。

① スピーカーの大きさ
② リスニングポジションからスピーカーまでの距離
③ スピーカーから出力される音量
④ スピーカーのクロスオーバー周波数

❑ スピーカーの測定結果を確認する

ここでは、以下の測定結果を確認することができます。

① スピーカー接続の有無や大きさ
② リスニングポジションからスピーカーまでの距離
③ スピーカーから出力される音量
④ スピーカーのクロスオーバー周波数

❑ スピーカーの測定結果を保存する

オートセットアップ後に測定結果やイコライザーの種類を確認する（☞26 ページ）

ここでは、以下の測定結果を確認することができます。

① スピーカーの大きさ
② リスニングポジションからスピーカーまでの距離
③ スピーカーから出力される音量
④ スピーカーのクロスオーバー周波数
⑤ イコライザーの種類

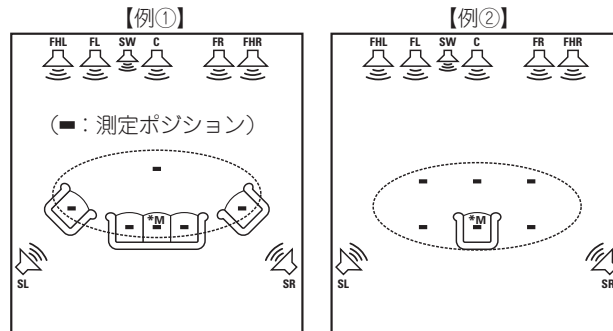
知っておいてほしいこと

本機のオートセットアップ機能である Audyssey MultEQ® は、リスニングルームの音響特性の測定、解析および設定を自動的におこない、最適なホームシアターオーディオ環境を提供します。

- オートセットアップをおこなうと MultEQ/DynamicEQ/Dynamic Volume の機能(☞43 ページ)が有効になります。
- オートセットアップは、付属のセットアップマイク（DM-A409）を使用しておこないます。
- 測定は、【例①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るには、図のように 6 ポジションで測定することをおすすめします。
  リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

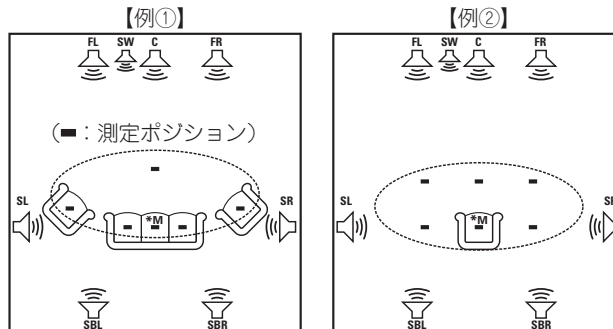
❑ フロントハイトスピーカーをご使用になるとき

【例①】

【例②】

❑ サラウンドバックスピーカーをご使用になるとき

【例①】

FL SW C FR
（▬：測定ポジション）
SL SR
*M
SBL SBR

【例②】

FHL：フロントハイト左スピーカー
FL：フロント左スピーカー
SW：サブウーハー
C：センタースピーカー
FR：フロント右スピーカー
FHR：フロントハイト右スピーカー
SR：サラウンド右スピーカー
SBR：サラウンドバック右スピーカー
SBL：サラウンドバック左スピーカー
SL：サラウンド左スピーカー

メインリスニングポジション（* M）について

メインリスニングポジションとは、最もリスナーが座る位置、または一人で視聴するときに座る位置をいいます。Audyssey MultEQ は、この位置からの測定値を用いて、スピーカー距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

ご注意

- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。室内の騒音が大きいとさらにテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができなくなります。
- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯などの電化製品をオフにしてください。測定はこれらの騒音の影響を受けることがあります。
  測定中、携帯電話はリスニングルームとは別の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨害する原因になることがあります。

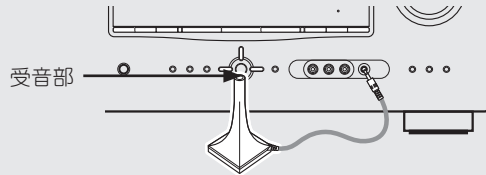
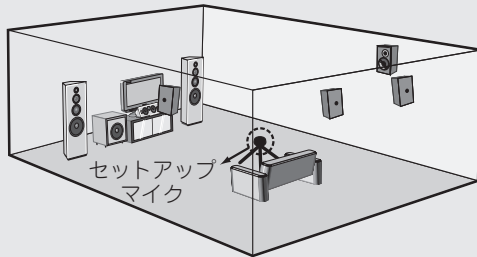
ステップ 1：付属のセットアップマイクを接続する

- セットアップマイクは、オートセットアップが完了するまで絶対に抜かないでください。
- ヘッドホンをご使用の場合は、オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

1 **スピーカーの接続を確認する。**
（☞14 ページ「スピーカーを接続する」）

2 **テレビやサブウーハーの電源を入れる。**
テレビの入力を本機の入力に設定します。

3 **本機の電源を入れる。**
（☞19 ページ「電源を入れる」）

4 **セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。**
自動的に“Auto Setup”画面を表示します。

5 **セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポジションに設置する。**
セットアップマイクを設置する際は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながらオートセットアップをおこなわないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

音量調節やクロスオーバー周波数の設定ができるサブウーハーをご使用の場合

オートセットアップをはじめる前に、以下の設定をおこなってください。

❑ ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合
ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❑ ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合
次のように設定してください。

- 音量の設定　：“12 時”の位置
- クロスオーバー周波数の設定　：“最大 / 最高周波数”
- ローパスフィルターの設定　：“オフ”
- スタンバイモードの設定　：“オフ”

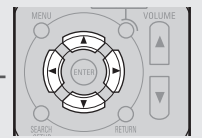
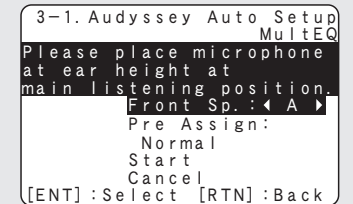
ステップ 2：オートセットアップの準備

□ で囲まれている項目は、お買い上げ時の設定です。

必要に応じて、以下の項目を設定してからおこなってください。

フロントチャンネルを再生するスピーカーを設定する（Front Sp.）

測定するフロントスピーカーをあらかじめ選びます。

1 **△▽ を押して“Front Sp.”を選ぶ。**

2 **◁ ▷ を押して再生するスピーカーを選び、ENTER を押す。**

A：フロントスピーカーを測定するときに、音声をフロントスピーカー A から出力します。

B：フロントスピーカーを測定するときに、音声をフロントスピーカー B から出力します。

A + B：フロントスピーカーを測定するときに、音声をフロントスピーカー A と B から同時に出力します。

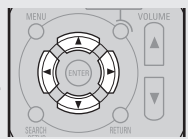
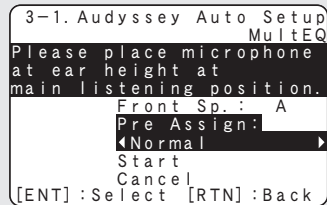
❑ 設定を中止するとき
△▽ を押して“Cancel”を選び、◁ ▷ を押して“Yes”を選ぶ。

プリアウト端子の出力信号の割り当てを変更する（Pre Assign）

本機の SURR. BACK / FRONT HEIGHT プリアウト端子から出力する信号を、お使いになるサラウンドモード用の信号に切り替えて出力することができます。

1 **△▽ を押して“Pre Assign”を選ぶ。**

2 **◁ ▷ を押してプリアサインモードを選ぶ。**

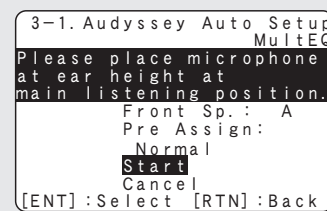
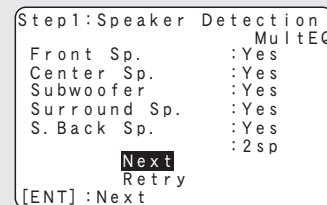
```
3-1.Audyssey Auto Setup
                 MultEQ
Please place microphone
at ear height at
main listening position.
      Front Sp. :   A
      Pre Assign:
     ◀Normal          ▶
      Start
      Cancel
[ENT]:Select  [RTN]:Back
```

Normal	：SURR. BACK / FRONT HEIGHT プリアウト端子から、サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
Front Height	：SURR. BACK / FRONT HEIGHT プリアウト端子から、フロントハイトチャンネルの音声を出力します。

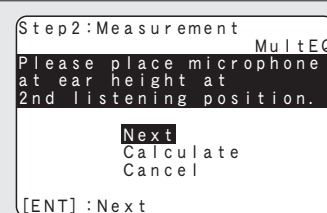
❑ 設定を中止するとき

△▽ を押して“Cancel”を選び、◁ ▷ を押して“Yes”を選ぶ。

ステップ 3：オートセットアップをおこなう

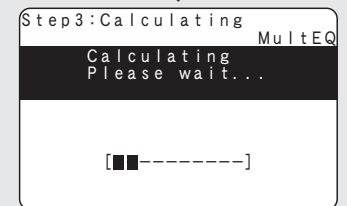
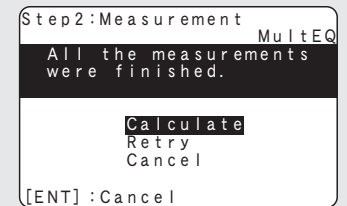
- オートセットアップでは、スピーカーの接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離、クロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。
- 測定をはじめると、各スピーカーからテストトーンを出力します。
- オートセットアップをはじめる前に、すべてのスピーカーを設置し接続してください。

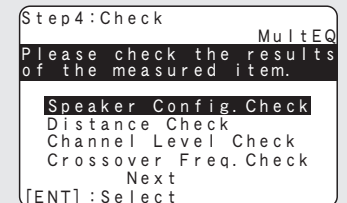
1 **△▽ を押して“Start”を選び、ENTER を押す。**
スピーカー構成の検出をはじめます。

2 **すべてのスピーカーの検出が終わり、右の画面が表示されたら、スピーカー接続の有無の結果を確認する。**

3 **結果を確認したら、△▽ を押して“Next”を選び、ENTER を押す。**
メインリスニングポジションの測定をはじめます。

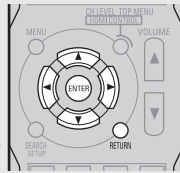
4 **右の画面が表示されたらセットアップマイクを 2 箇所目のリスニングポジションに移動し、△▽ を押して“Next”を選び、ENTER を押す。**
2 箇所目のリスニングポジションの測定をはじめます。

5 **手順 4 をくり返して、3 〜 6 箇所目のリスニングポジションを測定する。**
6 箇所目の測定が完了すると、“All the measurements were finished.”を表示します。

※ メインリスニングポジションとその周囲を合わせて、6 箇所の測定をおこなってください。測定ポジションが 5 箇所以下でも測定を終了することができますが、より良い結果を得るためには 6 箇所の測定をおすすめします。

6 **測定が終了したら、△▽ を押して“Calculate”を選び、ENTER を押す。**
スピーカーの解析をおこないます。

※ 解析には数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定箇所数に依存します。接続するスピーカーの数と測定ポジションが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

7 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**
測定結果の確認画面を表示します。

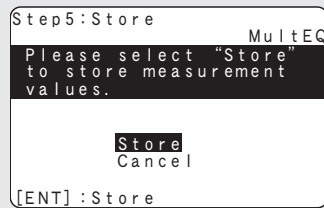
※ サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

8 RETURN **を押す。**

測定結果の確認画面に戻りますので、手順7をくり返しおこなってください。

9 **△▽ を押して“Next”を選び、ENTER を押す。**

10 **△▽ を押して“Store”を選び、ENTER を押す。**

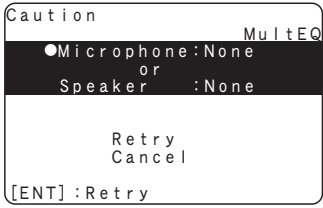
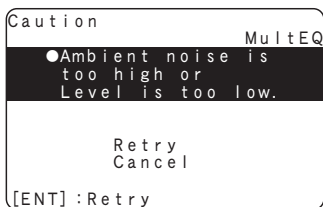
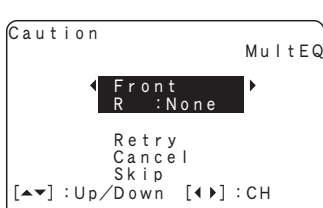
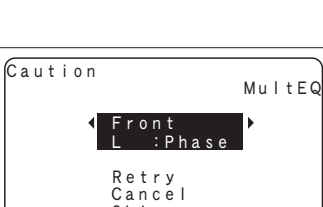
保存中は“Storing Please wait...”を表示します。

保存が終了すると、“Storing complete. Auto Setup is now finished.”を表示します。

※ 測定結果を保存しないときは、△▽ で“Cancel”を選び、◁▷ で“YES”を選んでください。すべての測定結果を消去します。

ご注意 **測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。**

11 **本機からセットアップマイクを抜く。**

ご注意

オートセットアップをおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再びオートセットアップをおこなってください。

- 接続している状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞26 ページ）をご覧になり、△▽ で“Retry”を選んだ後に ENTER を押して、再びオートセットアップをおこなってください。
- 再測定後の結果も、接続している状態と異なる結果が出た場合や、再度エラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性がありますので、必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザー補正を得るために、再びオートセットアップをおこなってください。

エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより、オートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目をチェックし、必要な処理をおこなってください。問題点を修正したら、再びオートセットアップをおこなってください。

ご注意 スピーカーの接続を確認する際には、必ず電源を切ってからおこなってください。

エラーメッセージ（例）	エラー内容	処　理
Caution MultEQ ●Microphone:None or Speaker :None Retry Cancel [ENT]:Retry	●付属のセットアップマイクが接続されていません。 ●すべてのスピーカーが検出されません。 ●フロント左スピーカーが正しく検出されません。	●付属のセットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ ●Ambient noise is too high or Level is too low. Retry Cancel [ENT]:Retry	●部屋の騒音が大きいため、正しく測定できません。 ●スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しく測定できません。	●騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ●周囲がより静かなときに再度おこなってください。 ●スピーカーの設置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
Caution MultEQ Front R :None Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	●表示されたスピーカーが検出されませんでした。 ・フロント右スピーカーが正しく検出されません。 ・サラウンドスピーカーの片方のチャンネルしか検出されていません。 ・サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ接続している場合に、右チャンネルから検出されました。 ・サラウンドバックスピーカーが検出されましたが、サラウンドスピーカーが検出されません。	●表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ Front L :Phase Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	●表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	●表示されたスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーによっては、正しく接続してもこのエラーメッセージが表示される場合があります。接続が正しいときには、△▽を押して“Skip”を選び、ENTER を押してください。

❏ 再びオートセットアップをおこなうとき

△▽ を押して“Retry”を選び、ENTER を押す。

❏ 測定を中止するとき

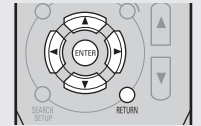
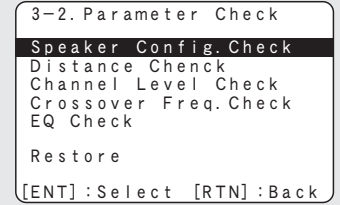
△▽ を押して“Cancel”を選び、◁ ▷ を押して“Yes”を選ぶ。

オートセットアップ後に測定結果やイコライザーの種類を確認する（Parameter Check）

このメニュー項目は、オートセットアップ後に表示します。

1 **△▽ を押して“Parameter Check”を選び、ENTER を押す。**

“Parameter Check”メニューを表示します。

```
3-2.Parameter Check

Speaker Config.Check
Distance Chenck
Channel Level Check
Crossover Freq.Check
EQ Check

Restore

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

2 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**

Speaker Config. Check	：スピーカー構成の確認
Distance Check	：距離の確認
Channel Level Check	：チャンネルレベルの確認
Crossover Freq. Check	：クロスオーバー周波数の確認
EQ Check	：イコライザーの確認

3 **◁ ▷ を押して各スピーカーの表示を切り替える。**

4 **RETURN を押す。**

確認画面に戻りますので、手順 2、3 をくり返しおこなってください。

オートセットアップ後に各設定を変更しても、“Restore”を選び ENTER を押すと、オートセットアップの設定値に戻すことができます。

詳細な設定をする（Manual Setup）

オートセットアップの設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更する場合に設定します。
設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
“メニュー一覧”と“操作手順”は、20ページをご覧ください。

❑ Manual Setupで設定できること

❑ メニュー画面の表示例

Speaker Setup

```
4-1.Speaker Setup

1.Pre Assign
2.Speaker Config.
3.Bass Setting
4.Distance
5.Channel Level
6.Crossover Freq.
7.Front Sp Setup

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

HDMI Setup

```
4-2.HDMI Setup

Auto Lipsync    : ON
HDMI Audio Out  : Amp
HDMI Control    : OFF

                [RTN]:Back
```

Audio Setup

```
4-3.Audio Setup

1.Auto Surround Mode
2.EQ Customize
3.Bilingual Mode

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Option Setup

```
4-5.Option Setup

1.Volume Control
2.Source Delete
3.On-Screen Display
4.Quick Select Name
5.Setup Lock

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

スピーカーの設定をする（Speaker Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合やオートセットアップで設定された内容を変更するときにおこなってください。

設定項目	設定内容
Pre Assign SURR. BACK/FRONT HEIGHT プリアウト端子から出力する信号を設定します。	**Normal：**サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。 **Front Height：**フロントハイトチャンネルの音声を出力します。
Speaker Config. スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。	**Front：**フロントスピーカーの大きさを設定します。 ●**Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 ●**Small：**低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 “Subwoofer”の設定が“No”の場合は、“Front”の設定は自動的に“Large”に切り替わります。
	Center：センタースピーカーの有無 / 大きさを設定します。 ●**Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 ●**Small：**低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 ●**None：**センタースピーカーを使用しません。 ●“Front”の設定が“Small”の場合、“Large”は表示しません。 ●“Center”を“Large”に設定しても、“Front”を“Small”に設定すると、“Center”の設定は自動的に“Small”に切り替わります。
ご注意 “Large”と“Small”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、低音域の再生能力で判断してください。	**Subwoofer：**サブウーハーの有無を設定します。 ●**Yes：**サブウーハーを使用します。 ●**No：**サブウーハーを使用しません。 “Front”の設定が“Small”の場合は、“Subwoofer”の設定は自動的に“Yes”に切り替わります。

次のページへ

設定項目	設定内容
Speaker Config. スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 **“S.Back”** は“Pre Assign”の設定（☞27 ページ）が“Normal”のときに表示します。	**Surround：**サラウンドスピーカーの有無 / 大きさを設定します。 **Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **<u>Small</u>：**低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None：**サラウンドスピーカーを使用しません。 “Front”の設定が“Small”の場合は、“Large”を表示しません。
	S.Back（プリアウト）：サラウンドバックスピーカーの有無 / 大きさ / 本数を設定します。 • **Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small：**低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **<u>None</u>：**サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2ch：**サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1ch：**サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときには、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 • “Surround”の設定が“Small”の場合は、“Large”を表示しません。 • “S.Back”を“Large”に設定しても、“Surround”を“Small”に設定すると、“S.Back”の設定は自動的に“Small”に切り替わります。 **ご注意** サラウンドバックスピーカーを設定していても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。この場合は“Surround Back”（☞42 ページ）を“OFF”以外に設定してください。
“Front Height” は“Pre Assign”の設定（☞27 ページ）が“Front Height”のときに表示します。 **ご注意** “Large”と“Small”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、低音域の再生能力で判断してください。	**Front Height（プリアウト）：**フロントハイトスピーカーの大きさを設定します。 • **Large：**低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small：**低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **<u>None</u>：**フロントハイトスピーカーを使用しません。 • “Front”の設定が“Small”の場合は、“Large”を表示しません。 • “Front Height”を“Large”に設定しても、“Front”を“Small”に設定すると、“Front Height”の設定は自動的に“Small”に切り替わります。

設定項目	設定内容
Bass Setting サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。 “Speaker Config.” ⇨ “Subwoofer”の設定（☞27 ページ）が“Yes”のときに表示します。	**Subwoofer Mode：**サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **<u>LFE</u>：**サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさが“Small”に設定されているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+Main：**サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+Main”に設定してください。
	LPF for LFE：LFE 信号の再生帯域を設定します。 • **<u>80Hz</u>** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**
Distance リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポジションから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**Unit：**距離の単位を設定します。 • **Feet（フィート）** • **<u>Meters（メートル）</u>**
	Step：距離の最小可変幅を設定します。 • **1ft** / **0.1ft** • **<u>0.1m</u>** / **0.01m**
	FL（フロント左）/ **FR**（フロント右）/ **C**（センター）/ **SW**（サブウーハー）/ **SL**（サラウンド左）/ **SR**（サラウンド右 / **SBL**（サラウンドバック左）/ **SBR**（サラウンドバック右）/ **FHL**（フロントハイト左）/ **FHR**（フロントハイト右）**：**スピーカーを選びます。 • **0.0ft** ～ **60.0ft** / **0.00m** ～ **18.00m：**距離を設定します。 • “Pre Assign”（☞27 ページ）および“Speaker Config.”の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： フロント / センター / サブウーハー / フロントハイト： 3.60 メートル（12 フィート） サラウンド / サラウンドバック：3.00 メートル（10 フィート） **ご注意** 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。不適切な距離に設定すると、画面に“Relocate Speaker”を表示します。
	Default：設定された内容を初期値に戻します。 • **Yes：**設定を初期値に戻します。 • **<u>No</u>：**設定を初期値に戻しません。

設定項目	設定内容
Channel Level 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**Test Tone Start :** テストトーンを出力します。 **FL**（フロント左）/ **C**（センター）/ **FR**（フロント右）/ **SR**（サラウンド右）/ **SBR***（サラウンドバック右）/ **SBL***（サラウンドバック左）/ **SL**（サラウンド左）/ **FHL**（フロントハイト左）/ **FHR**（フロントハイト右）/ **SW**（サブウーハー）**:** スピーカーを選びます。 ＊ “S.Back”（☞28 ページ）の設定が“1ch”のときは“SB”を表示します。 • **-12.0dB** ～ **+12.0dB**（**<u>0.0dB</u>**）**:** 音量を調節します。 ✎ • “Channel Level”を調節すると、調節された値をすべてのサラウンドモードに対して設定します。サラウンドモードごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、「各スピーカーの音量を調節する」（☞47 ページ）をご覧ください。 • “Speaker Config.”の設定（☞28 ページ）で、“None”または“No”に設定されているスピーカーは表示しません。 • サブウーハーの音量が“-12dB”のときに ◁ を押すと、“Channel Level”の設定は“OFF”になります。 • ミューティング中にテストトーンの出力を開始した場合は、ミューティングを解除します。
	Default : 設定された内容を初期値に戻します。 **Yes :** 設定を初期値に戻します。 **<u>No</u> :** 設定を初期値に戻しません。
Crossover Frequency 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。 “Speaker Config.” ⇨ “Subwoofer” の設定（☞28 ページ）が“Yes”または“Small”のときに設定できます。	**Crossover :** 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。 • **40Hz** / **60Hz** / **<u>80Hz</u>** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz** • **Advanced :** スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 **Front** / **Center** / **Surround** / **S.Back** / **Front Height :** スピーカーを選びます。 • **40Hz** / **60Hz** / **<u>80Hz</u>** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz :** クロスオーバー周波数を設定します。

設定項目	設定内容
Crossover Frequency （つづき）	✎ • クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • “Small”に設定されているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • “Bass Setting”（☞28 ページ）の設定により、“Advanced”のときに設定できるスピーカーが異なります。 ・“LFE”の場合は、“Speaker Config.”で“Small”に設定されているスピーカーの設定ができます。 ・“LFE+Main”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
Front Speaker Setup 再生モードごとに使用するフロントスピーカーを設定します。	**Setting :** フロントスピーカーの設定方法を選びます。 • **<u>Normal</u> :** SPEAKERS を使用してフロントスピーカーの設定をします。 • **Custom :** 再生モードごとに使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 **DIRECT/STEREO :** ダイレクト再生、ステレオ再生時に使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 • **<u>A</u> :** フロントスピーカー A を使用します。 • **B :** フロントスピーカー B を使用します。 • **A+B :** フロントスピーカー A と B の両方を使用します。 **MULTI CH :** ダイレクト再生、ステレオ再生以外の再生モードごとに使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 • **<u>A</u> :** フロントスピーカー A を使用します。 • **B :** フロントスピーカー B を使用します。 **A+B :** フロントスピーカー A と B の両方を使用します。 **ご注意** • “Custom”に設定すると、SPEAKERS での操作はできません。 • クイックセレクトに記憶しているフロントスピーカーの設定を優先します。

HDMI の設定をする（HDMI Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Auto Lip Sync 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**ON：**補正します。 **OFF：**補正しません。
HDMI Audio Out HDMI の音声の出力先を設定します。	**Amp：**本機に接続されたスピーカーで再生します。 **TV：**本機に接続されたテレビのスピーカーで再生します。 ご注意 HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続されたテレビの音声設定を優先します（☞46 ページ「本機で HDMI 対応機器をコントロールする（HDMI コントロール機能）」）。
HDMI Control 外部機器を本機で操作したり、外部機器から本機を操作したりします。 ご注意 HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロールをおこなうときは、必ずテレビを接続してください。	**ON：**HDMI コントロール機能を使用します。 **OFF：**HDMI コントロール機能を使用しません。 • 接続された機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、「本機で HDMI 対応機器をコントロールする（HDMI コントロール機能）」（☞46 ページ）をご覧ください。 ご注意 • **本設定を“ON”に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。** • 長期間本機を使用しない場合は、本体の ON/OFF を押して電源をオフにする（■OFF）ことをおすすめします。 • “HDMI Control”の設定を変更した場合には、必ず接続している機器の電源を入れ直してください。 • 本機が電源オフの場合、HDMI コントロール機能は動作しません。電源をオンにするか、スタンバイ状態にしてください。
Standby Source スタンバイ時に HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。 “HDMI Control” の設定が“ON”のときに設定できます。	**Last：**電源がオンのときに、最後に使用していた入力ソースのままスタンバイします。 **HDMI1** / **HDMI2** / **HDMI3：**それぞれの入力端子が割り当てられている入力ソースでスタンバイします。

設定項目	設定内容
Power Off Control 本機と外部機器の電源オフを連動します。 “HDMI Control” の設定が“ON”のときに設定できます。	**ON：**連動します。 **OFF：**連動しません。 • 接続している機器の設定は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、「本機で HDMI 対応機器をコントロールする(HDMI コントロール機能)」(☞46 ページ)をご覧ください。

音声の設定をする（Audio Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Auto Surround Mode 入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。	**ON：**記憶します。入力信号の種類に対して、最後に設定したサラウンドモードで、自動的に再生します。 **OFF：**記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。 オートサラウンドモードは、次の 4 種類の入力信号に対して、最後に設定したサラウンドモードを記憶します。 ① アナログや PCM の 2 チャンネル信号 ② ドルビーデジタルや DTS などの 2 チャンネル信号 ③ ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネル信号 ④ ドルビーデジタルやDTS以外のマルチチャンネル信号(PCMなど)
EQ Customize MULTEQ を使用したときに、使用しないイコライザーが表示されないように設定します。	**Audyssey Byp. L/R / Audyssey Flat / Manual：** • **Used：**使用します。 • **Not Used：**使用しません。 ご注意 • オートセットアップを実行すると、“Audyssey Byp. L/R”、“Audyssey Flat”の設定ができるようになります。 • クイックセレクトに、“Not Used”に設定したイコライザーを記憶させて呼び出すことはできません。
Bilingual Mode AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。 二重音声のソースの再生中に設定できます。	**Main：**主音声のみ出力します。 **Sub：**副音声のみ出力します。 **Main/Sub：**主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 **Main+Sub：**主音声と副音声をミックスして出力します。

その他の設定をする（Option Setup）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
Volume Control 音量に関する設定をします。	**Volume Display：**音量レベルの表示方法を設定します。 • **Relative：**- - -dB（最小）、–80.5dB ～ +18dB の範囲で表示します。 • **Absolute：**0, 1 ～ 99 の範囲で表示します。
	Vol.Limit：音量の上限を設定します。 • **OFF：**設定しません。 • **–20dB(61)** / **–10dB(71)** / **0dB(81)**
	Power On Level：電源を入れたときの音量を設定します。 • **Last：**記憶している音量になります。 • **- - -：**常に電源を入れたときは消音状態になります。 • **–80dB(1)** ～ **+18dB(99)：**設定した音量になります。
	Mute Level：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **Full：**消音状態になります。 • **–40dB：**現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **–20dB：**現在の音量から 20dB 下げて再生します。
Source Delete 使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	**TUNER** / **DVD** / **HDP** / **TV** / **SAT/CBL** / **VCR** / **DVR** / **V.AUX：** 使用しない入力ソースを選びます。 • **ON：**使用します。 • **Delete：**使用しません。 ご注意 • 選択中の入力ソースの設定はできません。 • “Delete”に設定された入力ソースは、SOURCE SELECT を操作しても選択できません。
On-Screen Display テレビ画面の表示に関する設定をします。	**Screensaver：**スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **ON：**メニューの表示中や iPod 画面の表示中に約 3 分間何も操作をしない状態が続くとスクリーンセーバー画面に切り替わります。 △▽◁▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、前の画面を表示します。 • **OFF：**使用しません。
	Text：サラウンドモードや入力モードなどの切り替え操作時にモード名を表示します。 • **ON：**表示します。 • **OFF：**表示しません。
	Master Volume：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **Bottom：**画面下に表示します。 • **Top：**画面上に表示します。 • **OFF：**表示しません。

ご使用になる前に
接続
セットアップ
再生
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

設定項目	設定内容
On-Screen Display	**iPod Information：**メインルームの入力ソースが“iPod”のときにiPod 画面の表示時間を設定します。 • **Always：**常に表示します。 • **<u>30sec</u>：**操作後に 30 秒間 iPod 画面を表示します。 • **10sec：**操作後に 10 秒間 iPod 画面を表示します。 • **OFF：**表示しません。
Quick Select Name “クイックセレクト”の表示名を変更します。	**Rename Level：**選択した“クイックセレクト”の表示名をお好みの名前に変更します。 **1.** △▽ **を押して変更したいクイックセレクト名を選び、ENTER を押す。** **2.** ◁ ▷ **を押して変更したい文字にカーソルを合わせる。** **3.** △▽ **を押して文字を変更し、ENTER を押す。** • 16 文字まで入力できます。 • 表示名を変更中に SEARCH SETUP を押すと、入力文字の種類を切り替えることができます。 • 入力できる文字の種類は次のとおりです。 【英大文字】 **ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ** 【英小文字】 **abcdefghijklmnopqrstuvwxyz** 【記号】 **’ ( ) ※ + − . / : ; < = > ? [ ]** 【数字】 **0123456789**（空白） **4. 手順 2、3 をくり返し、表示名を変更する。**
	Template：あらかじめ設定しているテンプレートの中から、“動作”と“機器名”を選択して表示名を変更することができます。 **1.** △▽ **を押して変更したいクイックセレクト名を選び、ENTER を押す。** **2.** △▽ **を押して“Template”を選び、ENTER を押す。** **3.** △▽ **を押して“動作”を選び、ENTER を押す。** **<u>Watch</u> / Listen to / Play / For** **4.** △▽◁ ▷ **を押して“機器名”を選び、ENTER を押す。** • **“Watch”選択時：** **DVD / Blu-Ray / HDP / TV / Cable TV / Satellite / VCR / DVR / iPod / V.AUX / LD / Movie** • **“Listen to”選択時：** **CD / TUNER / iPod / MD / TAPE / Music** • **“Play”選択時：PC / Game** • **“For”選択時：** **Father / Mother / Son / Daughter / Brother / Sister / Grandfather / Grandmother / Me**
	Default：変更された表示名を初期設定に戻します。 • **Yes：**初期設定に戻します。 • **<u>No</u>：**初期設定に戻しません。

設定項目	設定内容
Setup Lock 設定した内容を変更できないように保護します。	**ON：**設定した内容を保護します。 **<u>OFF</u>：**設定した内容を保護しません。 “Setup Lock”を“ON”に設定すると、以下の設定の変更ができなくなります。また、以下の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“SETUP LOCKED”を表示します。 ・MultEQ　・RESTORER ・Dynamic EQ　・チャンネルレベル ・Dynamic Volume　・オーディオディレイ

入力の設定をする（Input Setup）

現在設定している入力ソースに関する設定をします。
メニュー画面を表示させる前に、SOURCE SELECT ◯ で、設定をおこなう入力ソースに切り替えてください。
設定できる項目は選択している入力ソースによって異なります。
設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
“メニュー一覧”と“操作手順”は、20ページをご覧ください。

❏ Input Setupで設定できること

入力端子に割り当てられている入力ソースを変更する（Assign）
☞34 ページ

入力ソースの入力モードとデコードモードを変更する（Input Mode）
☞35 ページ

入力ソースの表示名を変更する（Rename）
☞35 ページ

入力ソースの再生レベルを補正する（Source Leval）
☞35 ページ

iPod の再生モードを設定する（iPod Playback Mode）
☞36 ページ

❏ メニュー画面の表示例

Assign

```
5-1-1. Input Assign
        HDMI  Digi  Comp
DVD       1            1
HDP       2
TV             01
SAT/CBL   3    C1
VCR/iPod
DVR            02      2
↓
[ENT]:Select  [RTN]:Back
```

Input Mode

Rename

知っておいてほしいこと

設定できる項目は選択している入力ソースによって異なります。
設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
設定できる内容と設定操作のしかたについては「メニュー一覧」（☞20ページ）をご覧ください。

本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわします。

DVD **HDP** **TV** **SAT/CBL** **VCR** **DVR** **V.AUX** **TUNER**

ご注意

“Source Delete”（☞31 ページ）で“Delete”に設定した入力ソースは選択できません。

ご使用になる前に
接続
セットアップ
再生
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

入力端子に割り当てられている入力ソースを変更する（Assign）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
Input Assign（HDMI） 入力端子に割り当てられている入力ソースを変更するときに設定します。	**HDMI：** DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX の入力ソースを次の HDMI 入力端子に割り当てます。 • **HDMI1** / **HDMI2** / **HDMI3** • **None：** 現在選択している入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。 ※ 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR	DVR	V.AUX
お買い上げ時の設定	HDMI1	HDMI2	None	HDMI3	None	None	None

• “HDMI” で割り当てた映像信号と “Digital” で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、“Input Mode”（☞35 ページ）を “Digital” に設定してください。
• 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続したとき、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。
• アナログ端子、デジタル端子および外部入力端子（EXT. IN）から入力された音声信号はテレビには出力しません。

ご注意

“HDMI Control” を “ON” に設定している場合、“HDMI”（☞30 ページ）の設定で、“TV” に HDMI を割り当てることはできません。

設定項目	設定内容
Input Assign（Digital） 入力端子に割り当てられている入力ソースを変更するときに設定します。	**Digital：** DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX の入力ソースを次のデジタル音声入力端子に割り当てます。 • **C1**（COAXIAL）/ **O1**（OPT1）/ **O2**（OPT2） • **None：** 現在選択している入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。 ※ 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR
お買い上げ時の設定	None	None	OPT1	COAX1	None

入力ソース	DVR	V.AUX	TUNER
お買い上げ時の設定	OPT2	None	None

設定項目	設定内容
Input Assign（Component） 入力端子に割り当てられている入力ソースを変更するときに設定します。	**Comonent：** DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX の入力ソースを次のコンポーネントビデオ入力端子（D 端子）に割り当てます。 • **COMP1**（コンポーネントビデオ 1 入力端子）/ **COMP2**（コンポーネントビデオ 2 入力端子） • **None：** 現在選択している入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てません。 ※ 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR	DVR	V.AUX
お買い上げ時の設定	COMP1	None	None	None	None	COMP2	None

設定項目	設定内容
iPod Dock iPod 用コントロールドックに割り当てられている入力ソースを変更します。	DVD SAT/CBL VCR DVR V.AUX TUNER の入力ソースを割り当てることができます。 **Assign：** 現在選択している入力ソースに、iPod 用コントロールドックの入力を割り当てます。 **None：** 現在選択している入力ソースに、iPod 用コントロールドックの入力を割り当てません。 • お買い上げ時の設定は VCR です。 • 本機に iPod 用コントロールドックを接続していないときは、“iPod Dock” の割り当ての設定は無効になり、割り当て前の入力ソースが有効になります。

リモコンの操作ボタン
MENU：メニューを表示する / メニューを解除する
：カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）
ENTER：設定を確定する
RETURN：ひとつ前のメニューに戻る

入力ソースの入力モードとデコードモードを変更する（Input Mode）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択できる入力モードは、入力ソースや“Assign”の設定によって異なります（☞34 ページ「入力端子に割り当てられている入力ソースを変更する」）。

設定項目	設定内容
Input Mode 各入力ソースの音声入力モードを設定します。	**Auto：**本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI：**HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Digital：**デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Analog：**アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 ※ 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR
お買い上げ時の設定	Auto	HDMI	Digital	Auto	Analog

入力ソース	DVR	V.AUX	TUNER
お買い上げ時の設定	Auto	Analog	Analog

- “HDMI”の設定は、“Assign”（☞34 ページ）で HDMI 入力端子が割り当てられた入力ソースにおこなえます。
- “Digital”の設定は、“Assign”（☞34 ページ）でデジタル音声入力端子が割り当てられた入力ソースにおこなえます。
- デジタル信号が正しく入力されると、ディスプレイの“DIG.”表示が点灯します。“DIG.”表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当てや接続を確認してください。
- INPUT MODE を押しても設定できます。
押すたびに、入力モードの表示が切り替わります。

→ Auto → HDMI → Digital → Analog →

設定項目	設定内容
Decode Mode 入力ソースのデコードモードを設定します。	**Auto：**デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM：**PCM 信号が入力されたときのみデコードして再生します。 **DTS：**DTS 信号が入力されたときのみデコードして再生します。 ●“Assign”（☞34 ページ）で、HDMI 入力端子またはデジタル音声入力端子が割り当てられた入力ソースに設定できます。 ●通常は“Auto”に設定してください。

入力ソースの表示名を変更する（Rename）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択した入力ソースの表示名を変更することができます。

設定項目	設定内容
Rename 入力ソースの表示名をお好みの名前に変更します。	**1.** ◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせる。 **2.** △▽ を押して文字を変更し、ENTER を押す。 ●8 文字まで入力できます。 ●表示名を変更中に SEARCH SETUP を押すと、入力文字の種類を切り替えることができます。 ●入力できる文字の種類は以下のとおりです。 【英大文字】 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ 【英小文字】 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 【記号】 ’ ( ) ※ + – . / : ; < = > ? [ ] 【数字】 0123456789（空白）
Default 変更された表示名を初期設定に戻します。	**Yes：**初期設定に戻します。 **No：**初期設定に戻しません。

入力ソースの再生レベルを補正する（Source Level）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

現在選択している入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって入力音量レベルに差があるときなどに設定してください。

設定項目	設定内容
Source Level (Analog) アナログ音声入力の再生レベルを補正します。	**-12dB ～ +12dB**（**0dB**）

iPod の再生モードを設定する（iPod Playback Mode）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

“Assign”（☞34 ページ）の設定で “iPod Dock” が割り当てられている入力ソースに設定できます。

設定項目	設定内容
Repeat リピート再生モードを設定します。	**All：**すべての曲をリピート再生します。 **One：**再生中の曲をリピート再生します。 **OFF：**リピート再生モードを解除します。
Shuffle シャッフル再生モードを設定します。	**❑DENON製iPod用コントロールドック ASD-1RまたはASD-11Rを使用しているとき** **Songs：**すべての曲をシャッフル再生します。 **Albums：**再生中のアルバムの曲をシャッフル再生します。 **OFF：**シャッフル再生モードを解除します。

リモコンの操作ボタン

MENU：メニューを表示する
メニューを解除する

：カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）

ENTER：設定を確定する

RETURN：ひとつ前のメニューに戻る

再生のしかた

❑ 操作のながれ

再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

機器を再生する

- ❑ **ブルーレイディスク /DVD プレーヤーを再生する**（☞37 ページ）
- ❑ **iPod® を再生する**（☞37 ページ）
- ❑ **再生中にできる操作**
  - 一時的に音量を消す（☞39 ページ）
  - ヘッドホンで聞く（☞39 ページ）
  - フロントスピーカーを切り替える（☞39 ページ）
  - ディスプレイの明るさを切り替える（ディマー）（☞39 ページ）

サラウンドモードを選ぶ（☞39 ページ）

音場効果を調節する（☞41 ページ）

ご注意

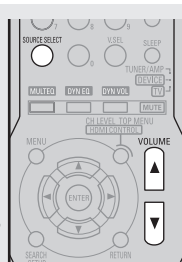
- 再生する際は、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。
- リモコンで外部の機器を操作することができます（☞48 ページ「リモコンで接続した機器を操作する」）。

機器を再生する

ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーを再生する

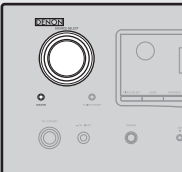
ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーの再生手順です。他の機器の再生も同じようにおこなってください。

1 再生の準備をする。

① テレビ、サブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 本機の電源を入れる。

（☞19 ページ「電源を入れる」）

3 SOURCE SELECT ◯ を押して、入力ソースを選ぶ。

※ "Video Select" モードで入力ソースを選択している場合は、本体の SOURCE SELECT ◯ を押してモードを解除してから操作してください。

4 プレーヤーを再生する。

あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

5 VOLUME ▲▼（主音量調節ボタン）を押して、音量を調節する。

【調節できる範囲】	– – –	–80.5dB ~ 18.0dB

※ 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

6 お好みのサラウンドモードを選ぶ。

（☞39 ページ「サラウンドモードを選ぶ」）

7 お好みの音場効果を調節する。

（☞41 ページ「音場効果を調節する」）

iPod® を再生する

別売りの DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W）をご使用になると、iPod の音楽やビデオを再生することができます。

あらかじめ iPod 用コントロールドックを接続してください（☞17 ページ「iPod®」）。

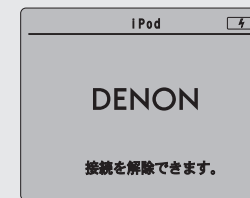
iPod® の音楽を聴く

1 再生の準備をする。

① DENON 製 iPod 用コントロールドックに、iPod® をセットする。
② "iPod Dock"（☞34 ページ）で iPod 用コントロールドックの入力を割り当てる。
③ リモコンのデバイス選択スイッチ TUNER/AMP DEVICE TV を "DEVICE" に切り替える。

2 本機の電源を入れる。

（☞19 ページ「電源を入れる」）

3 iPod ◯ を押して、操作 1- ②で割り当てた入力ソースを選ぶ。

（iPod の画面）

※ 上記の画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続を確認してください。

次のページへ

ご使用になる前に
接続
セットアップ
再生
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

4 SEARCH SETUP **を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。**
iPod の収録内容を表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード：テレビの画面に表示します。

＊ 半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

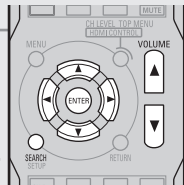
リモートモード：iPod の画面に表示します。

●本機のディスプレイに “Remote iPod” を表示します。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	○	○
	写真ファイル	×	○ ＊2
	映像ファイル	○ ＊1	○ ＊2
操作できるボタン	リモコン	○	○
	iPod®	×	○

＊1：DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を使用しているときに再生できます。

＊2：DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

5 △▽ **で項目を選び、** ENTER **または** ▷ **で再生したい音楽またはビデオファイルを選ぶ。**

6 ENTER **または** ▷ **を押す。**
再生をはじめます。

7 VOLUME ▲▼ **（主音量調節ボタン）を押して、音量を調節する。**

【調節できる範囲】 – – – **–80.5dB ~ 18.0dB**

※ 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

8 お好みのサラウンドモードを選ぶ。
（☞39 ページ「サラウンドモードを選ぶ」）

9 お好みの音場効果を調節する。
（☞41 ページ「音場効果を調節する」）

❑ 停止するとき

再生中に ENTER を長押しするか、■ を押す。

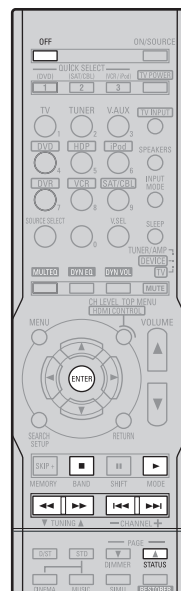
❑ 一時停止するとき

再生中に ENTER または ► を押す。
もう一度押すと、再生を再開します。

❑ 頭出しするとき

再生中に ⏮（再生中の曲の頭出し）または ⏭（次の曲の頭出し）を押す。

❑ リピート再生、シャッフル再生

“iPod の再生モードを設定する”（☞36 ページ）

●圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をするときは、RESTORER モードをおすすめします（☞45 ページ「RESTORER」）。お買い上げ時の設定は “Mode 3” です。

●ブラウズモードの再生中に STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認することができます。

●“iPod Information”（☞32 ページ）で、メニューの表示時間を設定することができます。メニュー表示中に △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

●iPod は、 で本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。入力ソースを iPod 以外に切り替えても、iPod を取り外すことができます。

ご注意

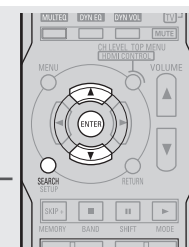
●iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。

●万一 iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

iPod® の写真や映像を見る

●スライドショーやビデオ機能がある iPod で、iPod に保存してある写真や映像のデータをテレビ画面に再生することができます（DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R 使用時のみ）。

●DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

1 SEARCH SETUP **を長押しして、リモートモードに切り替える。**
本機のディスプレイに “Remote iPod” を表示します。

2 iPodの画面を見ながら △▽ を押して、“写真” または “ビデオ” を選ぶ。

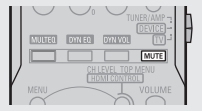
3 再生したい画像が表示されるまで、 ENTER **を押す。**

iPod の写真やビデオデータをテレビに映し出すには、iPod の “スライドショー設定” または “ビデオ設定” の “TV 出力” を “オン” に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

Made for iPod

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

再生中にできる操作

一時的に音を消す（ミューティング）

MUTE を押す。

- “Mute Level”（☞31 ページ）で設定したレベルまで音量が下がります。
- ミューティングを解除するときは、もう一度 MUTE を押してください。主音量を調節しても解除します。

ヘッドホンで音を聴く

本体の PHONES 端子に、ヘッドホンのプラグを差し込む。
自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- オートセットアップや各設定をおこなうときは、ヘッドホンをはずしてください。

フロントスピーカーを切り替える

SPEAKERS を押す。

ご注意
“Front Speaker Setup”（☞29 ページ）の “Setting” を “Custom” に設定すると、SPEAKERS は操作できません。

ディスプレイの明るさを切り替える（ディマー）

DIMMER を押す。

サラウンドモードを選ぶ

サラウンドモードを選ぶことによって、お好みの音場効果を加えたサラウンド再生をお楽しみいただけます。

①ソースの音声信号形式 / チャンネル数に合わせて再生する（スタンダード再生）

操作のしかた

選択できるサラウンドモードは次の内容により異なります。
- 入力している音声信号形式
- 入力している音声のチャンネル数
- 設定しているプリアサインモード（☞27 ページ）

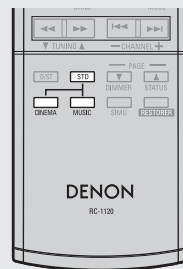
1 ソースを再生する（☞37ページ）。

2 STD を押して、サラウンドモードを選ぶ。

❑ **マルチチャンネルソース**
選択できるサラウンドモードは入力ソースによって異なります。

❑ **2チャンネルソース**
“DOLBY PLIIz”を選ぶときは、“Pre Assign”を “Front Height” に設定してください。

DOLBY PLIIx, DOLBY PLII or DOLBY PLIIz	*：DOLBYPLIIx、DOLBY PLII、DOLBY PLIIz でデコードしてサラウンド再生します。
DTS NEO:6	：DTS NEO:6 でデコードしてサラウンド再生します。

*：DOLBYPLIIxは、サラウンドバックスピーカーを使用しているときに選べます。

3 2チャンネルソースを再生するときの操作です

“Mode”（☞41ページ）でソースに合わせたモードを選ぶ。

❑ **DOLBY PLIIx, DOLBY PLII**

Cinema	：映画ソースに適したモードです。
Music	：音楽ソースに適したモードです。
Game	：ゲームに適したモードです。
Pro Logic	：プロロジック再生モードです。PLIIデコーダーで再生する場合に選べます。このモードを選ぶと、ディスプレイに “DOLBY PL” を表示します。

❑ **DTS NEO:6**

Cinema	：映画ソースに適したモードです。
Music	：音楽ソースに適したモードです。

※ 選択できるモードは、再生している入力ソースにより異なります。

“Cinema” および “Music” は、リモコンの CINEMA および MUSIC でも選択することができます。

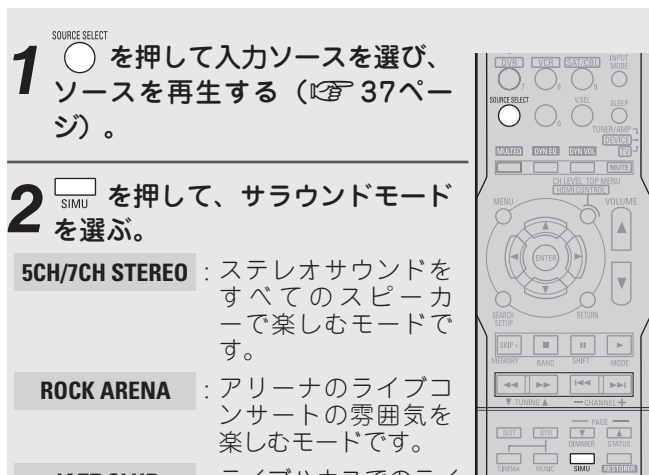
次のページへ

ご使用になる前に
接続
セットアップ
再生
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

再生中のサラウンドモードの表示

❑ マルチチャンネルのソースをサラウンド再生する（ドルビーデジタル、DTS、AAC など）

マルチチャンネルソースのスタンダード再生では、入力しているマルチチャンネル音声の信号形式を検出し、自動的にその専用デコーダーを動作させて、サラウンド再生をおこないます。

入力信号		ディスプレイの表示内容
Dolby Digital	Dolby Digital（2チャンネル以外）/ Dolby Digital EX	DOLBY DIGITAL
		DOLBY DIGITAL EX
		DOLBY DIGITAL+PLIIx CINEMA
		DOLBY DIGITAL+PLIIx MUSIC
		DOLBY DIGITAL+PLIIz
	Dolby Digital Plus（＊1）	DOLBY DIGITAL++PLIIx C
		DOLBY DIGITAL++PLIIx M
		DOLBY DIGITAL++PLIIz
	Dolby TrueHD（＊1）	DOLBY TrueHD
		DOLBY HD+EX
		DOLBY HD+PLIIx CINEMA
		DOLBY HD+PLIIx MUSIC
		DOLBY HD+PLIIz
DTS	DTS（5.1チャンネル）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND
		DTS+PLIIx CINEMA
		DTS+PLIIx MUSIC
		DTS+PLIIz
		DTS+NEO:6
		DTS ES MTRX6.1（＊2）
		DTS ES DSCRT6.1（＊3）
		DTS 96/24（＊4）
	DTS-HD（＊1）	DTS-HD HI RES
		DTS-HD MSTR
		DTS-HD+NEO:6
		DTS-HD+PLIIx CINEMA
		DTS-HD+PLIIx MUSIC
		DTS-HD+PLIIz
PCM	PCM（マルチチャンネル）	MULTI CH IN
		MULTI IN+PLIIx CINEMA
		MULTI IN+PLIIx MUSIC
		MULTI IN+PLIIz
		MULTI CH IN 7.1
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC（5.1チャンネル）	MPEG2 AAC
		AAC + Dolby EX
		AAC + PLIIx CINEMA
		AAC + PLIIx MUSIC
		AAC + PLIIz
	MPEG-2 AAC（1+1チャンネル）	MPEG2 AAC

＊1：HD AUDIO 信号が入力されたときに、“HD AUDIO”表示が点灯します。
＊2：入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”で、“AFDM”の設定（☞42 ページ）が“ON”のときに表示します。
＊3：入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示します。
＊4：入力信号が“DTS 96/24”のときに表示します。

❑ AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

② DENON オリジナルサラウンドで再生する

7 通りの DENON オリジナルサラウンドモードの中から、プログラムソースや視聴するシチュエーションに応じてお好みのモードを選ぶことができます。

1 SOURCE SELECT を押して入力ソースを選び、ソースを再生する（☞ 37ページ）。

2 SIMU を押して、サラウンドモードを選ぶ。

5CH/7CH STEREO：ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。

ROCK ARENA：アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

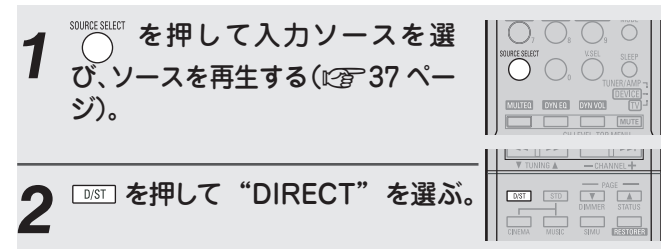
JAZZ CLUB：ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

MONO MOVIE：モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。＊1

VIDEO GAME：ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。

MATRIX：ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。

VIRTUAL：フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

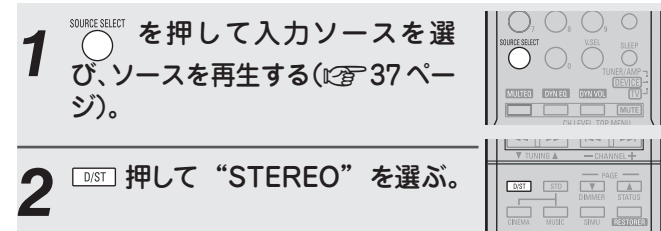
＊1：モノラル録音ソースを“MONO MOVIE”モードで再生する場合、片チャンネル（左または右）では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

ご注意

入力信号がドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD の場合、DENON オリジナルサラウンドは選べません。

③ダイレクト再生をおこなう

音質調節回路を通さず、高音質で再生するモードです。
入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

1 SOURCE SELECT を押して入力ソースを選び、ソースを再生する（☞37 ページ）。

2 D/ST を押して“DIRECT”を選ぶ。

再生中のサラウンドモードの表示

入力信号	ディスプレイ表示内容
アナログ信号 PCM（2ch） Dolby Digital ソース DTS ソース その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT
PCM（multi ch）	MULTI CH DIRECT
	M DIRECT + PLIIx CINEMA
	M DIRECT + PLIIx MUSIC
	M DIRECT + PLIIz
	M DIRECT 7.1

④ステレオ再生をおこなう

音質調整ができるステレオ再生用のモードです。
フロントスピーカー（左 / 右）とサブウーハーから音声を出力します。

1 SOURCE SELECT を押して入力ソースを選び、ソースを再生する（☞37 ページ）。

2 D/ST 押して“STEREO”を選ぶ。

音場効果を調節する（Parameter）

サラウンド音声の再生音をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目（パラメーター）は、入力している信号や設定しているサラウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サラウンドパラメーター 一覧表」（☞53 ページ）をご覧ください。

ご注意

設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。

音場効果を調節する（Surround Parameter）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
Mode 2CH ソースをサラウンド再生するときの再生モードを設定します。	❏**PLⅡx、PLⅡ または PLⅡz モードのとき** **Cinema：**映画ソースに適したモードです。 **Music：**音楽ソースに適したモードです。 **Game：**ゲームに適したモードです。 **ProLogic：**ドルビープロロジック再生（4 チャンネル（フロント左 / 右、センター、サラウンド（モノラル））再生）モードです。PLⅡ モードのときに選択できます。 ❏**NEO:6 モードのとき** **Cinema：**映画ソースに適したモードです。 **Music：**音楽ソースに適したモードです。 ●“Music”モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。 ● CINEMA または MUSIC を押して、“Cinema”モードと“Music”モードを設定することもできます。
Cinema EQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	**OFF：**設定しません。 **ON：**設定します。
ダイナミックレンジコンプレッション（D.Comp） ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**Low/Mid/High：**圧縮量を設定します。 **OFF：**ダイナミックレンジを圧縮しません。 D.Comp 機能に対応している DTS ソフトの再生時に“D.Comp”表示を点灯します。
ダイナミックレンジコントロール（DRC） ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**Auto：**ドルビー TrueHD ソースのダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。 **Low/Mid/High：**圧縮量を設定します。 **OFF：**ダイナミックレンジを圧縮しません。
LFE 低域信号（LFE）レベルを調節します。	**-10dB ～ 0dB** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 ●ドルビーデジタルソース：“0dB” ●DTS の映画ソース：“0dB” ●DTS の音楽ソース：“–10dB”
Center Image センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0.0 ～ 1.0（0.3）**
Panorama フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。	**ON：**設定します。 **OFF：**設定しません。
Dimension 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。	**0 ～ 6（3）**
Center Width センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0 ～ 7（3）**
Delay Time 遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。	**0ms ～ 300ms（30ms）**
Effect Level エフェクトレベルを調節します。	**1 ～ 15（10）** サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。
Room Size 音場空間の大きさを設定します。 **ご注意** “Room Size”は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。	**Small：**小さな音場空間のイメージ **Medium small：**やや小さな音場空間のイメージ **Medium：**標準的な音場空間のイメージ **Medium large：**やや大きな音場空間のイメージ **Large：**大きな音場空間のイメージ

設定項目	設定内容
AFDM（オートフラグディテクトモード） ソースのサラウンドバックチャンネル信号を検出して自動的に最適なサラウンドモードを設定します。	**ON：**設定します。 **OFF：**設定しません。
Surround Back サラウンドバックチャンネルの生成方法を設定します。	**❑2 チャンネルソースのとき** **ON：**サラウンドバックチャンネルを使用します。 **OFF：**サラウンドバックチャンネルを使用しません。 **❑マルチチャンネルソースのとき** サラウンドバック信号を含まないソースのサラウンドバックチャンネルの生成方法やソースに含まれるサラウンドバック信号を再生しないときに設定します。再生するソースの音声信号を確認して設定してください。 **OFF：**サラウンドバックチャンネルを再生しません。 **MTRX ON：**サラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx CINEMA**＊1**：**Dolby pro Logic Ⅱx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx MUSIC**＊2**：**Dolby pro Logic Ⅱx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES MTRX：**DTS ソースのサラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES DSCRT**＊3**：**6.1ch DTS ソースに含まれているサラウンドバック信号を再生します。 **DSCRT ON**＊3**：**7.1ch ソースに含まれるサラウンドバック信号を再生します。 ＊1：“Speaker Config.”（☞28 ページ）の設定で、“S.Back”が“2ch”のときに選べます。 ＊2：“Speaker Config.”（☞28 ページ）の設定で、“S.Back”が“2ch”または“1ch”のときに選べます。 ＊3：“AFDM”が“オン”のときは、AFDM 機能によりサラウンドバックチャンネルを再生します。“AFDM”が“オフ”のときに選ぶとソースのサラウンドバック信号を再生します。 STD を押して設定することもできます。 **ご注意** “Pre Assign”（☞27 ページ）の設定が“7.1 チャンネルサラウンドバック”または“6.1 チャンネルサラウンドバック”のとき、および“S.Back”（☞28 ページ）の設定が“Large”または“Small”のときに有効です。

設定項目	設定内容
Front Height フロントハイトチャンネルを使用するかしないかを設定します。	**ON：**フロントハイトチャンネルを使用します。 **OFF：**フロントハイトチャンネルを使用しません。 SPEAKERS を押して設定することもできます。
Subwoofer サブウーハー出力をするかしないかを設定します。	**ON：**出力します。 **OFF：**出力しません。
Default サラウンドパラメーターのすべての設定内容を初期設定に戻します。	**Yes：**初期設定に戻します。 **No：**初期設定に戻しません。

トーンを調節する（Tone Control）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

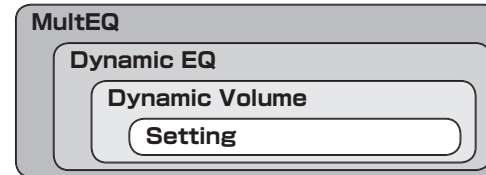
設定項目	設定内容
Tone Control トーンコントロールのオン / オフを設定します。 “Dynamic EQ”（☞43 ページ）の設定が“OFF”のときに設定できます。	**ON：**低音や高音のトーンを調節できます。 **OFF：**トーンの調節をしないで再生します。 ダイレクト再生中は、トーンの調節ができません。
Bass 低音を調節します。 “Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。	**-6dB ～ +6dB（0dB）**
Treble 高音を調節します。 “Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。	**-6dB ～ +6dB（0dB）**

：カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）　ENTER：設定を確定する　RETURN：ひとつ前のメニューに戻る

MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume を 設 定 す る（Audyssey Settings）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

- オートセットアップ（☞23 ページ）をおこなうと MultEQ/Dynamic EQ/Dynamic Volume の機能が有効になります。
- 各機能の動作条件は次のとおりです。
  - Dynamic EQ：
    “MultEQ” が “ON” のとき
  - Dynamic Volume：
    “Dynamic EQ” が “ON” のとき
  - Setting：
    “Dynamic Volume” が “ON” のとき

ご注意

オートセットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ/Dynamic EQ/Dynamic Volume を選択できなくなります。または “Run Audyssey” を表示します。
その場合は再度オートセットアップをおこなうか、“Restore”（☞26 ページ）をおこなってオートセットアップ実行後の設定に戻してください。

設定項目	設定内容
MultEQ 各スピーカーの周波数特性を補正します。 ご注意 ● “EQ Customize”（☞31 ページ）で “Not Used” に設定した “MultEQ” および “Manual EQ” は選択できません。 ● ヘッドホンを使用しているとき、“MultEQ” は “OFF” になります。	**Audyssey：**すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R：**フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat：**すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **Manual：**“Manual EQ”（☞44 ページ）で調節された周波数特性を適用します。 **OFF：**“MultEQ” イコライザーを使用しません。 ● “Audyssey”、Audyssey Byp. L/R” または “Audyssey Flat” を選ぶと、“AUDYSSEY MULTEQ” 表示が点灯します。 ● オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更したときは、“AUDYSSEY MULTEQ” 表示が点灯します。 ● MULTEQ を押して設定することもできます。

設定項目	設定内容
Dynamic EQ 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 “MultEQ”（☞43 ページ）の設定が “OFF” 以外のときに設定できます。	**ON：**“Dynamic EQ” イコライザーを使用します。 **OFF：**“Dynamic EQ” イコライザーを使用しません。 ● “ON” にすると “AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ” を表示します。 ● “MultEQ” を “OFF” に設定すると、“Dynamic EQ” も自動的に “OFF” に切り替わります。 ● DYN EQ を押して設定することもできます。 ご注意 “Dynamic EQ” を “ON” に設定すると、“Tone Control” は “OFF” になります。
	Reference Level Offset：Audyssey Dynamic EQ は、-20 dBFS 入力時 85dB SPL となるスタンダードフィルムミックスレベルを基準としています。しかし、映画産業以外では標準化が欠けており、コンテンツのリファレンスレベルが適切でない場合があります。そのようなコンテンツを視聴するときのために、Dynamic EQ リファレンスレベルオフセットでは 5dB、10dB、15dB のオフセットを備えています。 **0dB：**映画の視聴に適しています。 **5dB：**クラシックミュージックなどの高いレベルでミックスされたコンテンツに適しています。 **0dB：**ジャズなどのダイナミックレンジが広い音楽ソースに適しています。また、TV コンテンツの視聴にも適しています。 **5dB：**ポップスやロックミュージックなどのダイナミックレンジが非常に広いコンテンツに適しています。 “Dynamic EQ” を “ON” にすると設定されます。

設定項目	設定内容

Dynamic Volume
テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）を自動的に調整します。
“Dynamic EQ”（☞43 ページ）の設定が“ON”のときに設定できます。
	ON：“Dynamic Volume” イコライザーを使用します。Dynamic Volume の効果は、“Setting”（☞44 ページ）で設定した値になります。
	OFF：“Dynamic Volume”イコライザーを使用しません。
	●“ON”にすると“AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL”を表示します。
	●“MultEQ”を“OFF”に設定すると、“Dynamic Volume”も自動的に“OFF”に切り替わります。
	●DYN VOL を押して設定することもできます。
	Dynamic EQ / Volume : ON → Dynamic EQ : ON / Volume : OFF
	  “緑”
	  “赤”

Setting “Dynamic Volume”の効果を設定します。 “Dynamic EQ”（☞43 ページ）の設定が“ON”のときに設定できます。	**Day：**最小で設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **Evening：**中間で設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **Midnight：**最大で設定します。すべての音を一定の大きさにします。

グラフィックイコライザーを使って各スピーカーの音色を調節する（Manual EQ）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
Adjust CH 各スピーカーの音色を調節します。	**1. スピーカーの音色の調節方法を選択する。** **All CH：**すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **L/R CH：**左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **Each CH：**各スピーカーごとに音色を調節します。 **2. 調節する周波数帯を選択する。** **63Hz / 125Hz / 250Hz / 500Hz / 1kHz / 2kHz / 4kHz / 8kHz / 16kHz** ※“L/R CH”や“Each CH”を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 **3. レベルを調節する。** **-20.0dB ～ +6.0dB（0dB）**
Base Curve Copy “MultEQ”の“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。	**Yes：**コピーします。 **No：**コピーしません。 “Base Curve Copy”は、オートセットアップをおこなった後に表示されます。
Default “Manual EQ”の設定内容を初期設定に戻します。	**Yes：**初期設定に戻します。 **No：**初期設定に戻しません。

リモコンの操作ボタン

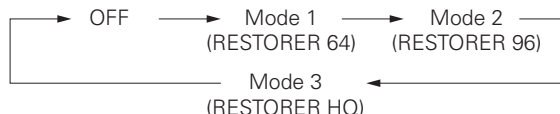
MENU：メニューを表示する / メニューを解除する　：カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）　ENTER：設定を確定する　RETURN：ひとつ前のメニューに戻る

圧縮音声を圧縮前に近い状態に復元して再生する（RESTORER）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

- MP3、WMA（Windows Media Audio）などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。
- アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときに、設定することができます。

設定内容
OFF：RESTORER を使用しません。 **Mode1**（RESTORER 64）：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。 **Mode2**（RESTORER 96）：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。 **Mode3**（RESTORER HQ）：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

- "iPod" のお買い上げ時の設定は、"Mode3" です。その他のお買い上げ時の設定は、すべて "OFF" です。
- "OFF" 以外に設定すると、"RSTR" 表示が点灯します。
- 再生中に RESTORER を押して設定することもできます。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節する（Audio Delay）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定内容
0ms ～ **200ms**

- HDMI やコンポーネントビデオ信号の再生中に △ を押して "OSD" を "OFF" に設定すると、映像を見ながら調節することができます。解除するときは、もう一度 △ を押してください。メニュー画面のみの表示に切り替わります。
- "DIRECT" および "STEREO" モード（Front Speaker："Large"、Tone Control："OFF"、MultEQ："OFF"、RESTORER："OFF"）の再生中は、調節できません。
- オートリップシンク補正機能が動作している場合は、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
- "Audio Delay" の設定は、入力ソースごとに記憶します。

本機の設定状態や入力信号の情報などを確認する（Information）

設定項目	設定内容
Status 現在の設定状態を表示します。	**Select Source**（入力ソース選択）/ **Surround Mode**（サラウンドモード）/ **Input Mode**（入力モード）/ **Decode Mode**（デコードモード）/ **HDMI**（HDMI 入力端子の割り当て）/ **Digital**（デジタル入力端子の割り当て）/ **Component**（コンポーネントビデオ入力端子の割り当て）/ **iPod Dock**（iPod 用コントロールドックの割り当て）/ **Video Select**（ビデオセレクト機能）/ **Source Level**（ソースレベル） STATUS を押して本体のディスプレイに現在の設定状態を表示することもできます。
Audio Input Signal 音声入力信号の情報を表示します。	**Surround Mode**：設定されているサラウンドモード **Signal**：入力信号の種類を表示 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **Format**：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **Offset**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **Flag**：サラウンドバックチャンネルが含まれている信号を入力しているときに表示します。入力信号がドルビーデジタル EX、DTS-ES マトリックスのときは "MATRIX"、DTS-ES ディスクリート信号などのときは "DISCRETE" を表示します。
HDMI Information HDMI の情報を表示します。	**HDMI Signal Information**（HDMI 信号情報） • **Resolution**（解像度）/ **Color Space**（色空間方式）/ **Pixel Depth**（ビット数）
	HDMI Monitor Information（HDMI モニター情報） • **Interface**（インターフェース）/ **Suport Resolution**（対応解像度）
Auto Surround Mode オートサラウンドモードに記憶されている内容を表示します。	**Analog/PCM**（アナログ /PCM）/ **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル）/ **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル）/ **Multi CH**（マルチチャンネル）
Quick Select "クイックセレクト" に記憶している内容を表示します。	**Quick Select 1**（クイックセレクト 1）/ **Quick Select 2**（クイックセレクト 2）/ **Quick Select 3**（クイックセレクト 3） • **Name**（クイックセレクト名）/ **Input Source**（入力ソース）/ **Video Select**（ビデオセレクト機能）/ **Volume Level**（音量レベル）/ **MultEQ** / **Dynamic EQ** / **Dynamic Vol**/ **Front SP** / **Analog/PCM**（アナログ /PCM）/ **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル）/ **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル）/ **Multi CH**（マルチチャンネル）

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能に対応しているテレビやプレーヤーを HDMI 接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定をすると、次の操作ができます。

❑ テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源を切ることができます

＊ テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにできます。

❑ テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます

❑ テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます

❑ テレビの入力切り替え操作に連動して、本機の入力ソース切り替えができます

❑ プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります

- テレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタル接続をしてください。（☞16 ページ「テレビを接続する」）
- 本機能をお使いになる場合は、“HDMI Control”（☞30 ページ）を“ON”に設定してください。

ご注意

- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロールをおこなうときは、必ずテレビを接続してください。
- 本機の電源を切ると、HDMI コントロール機能は動作しません。電源を入れるかスタンバイ状態にしてください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- “ HDMI Control”を“ON”に設定している場合、“HDMI”（☞30 ページ）の設定で、“TV”に HDMI 端子を割り当てることはできません。

1 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。**

2 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**

“HDMI Control”（☞30 ページ）を“ON”に設定してください。

※ 接続機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

※ いずれかの機器の電源コンセントを抜いた場合は、手順 1、2 をおこなってください。

3 **テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。**

4 **本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。**

5 **テレビの電源をスタンバイにし、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。**

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。

- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- 本機の設定は正しいか。
  - ・“HDMI Control”の設定（☞30 ページ）が“ON”になっているか。
  - ・“Power Off Control”の設定（☞30 ページ）が“ON”になっているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

以下の操作をおこなうと、設定が初期化される場合があります。その場合には、操作 2、3 をおこなってください。

- “HDMI”の設定変更（☞30 ページ）
- HDMI で接続している機器の接続変更や機器の追加

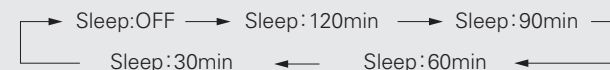
設定時間後に電源をスタンバイにする（スリープタイマー機能）

設定した時間が経過すると、自動的に電源がスタンバイになるように設定できます。

SLEEP を押して設定したい時間を表示する。

ディスプレイの“SLEEP”表示が点灯します。

- SLEEP を押すたびに、時間が次のように切り替わります。

Sleep:OFF → Sleep：120min → Sleep：90min → Sleep：60min → Sleep：30min → Sleep:OFF

- 時間の表示は約 5 秒後に消え、設定を確定します。
- 設定した時間が経過すると、自動的に電源がスタンバイになります。

❑ スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して“OFF”に設定する。

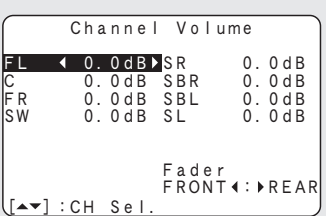
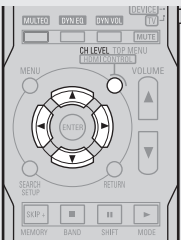
- ディスプレイの“SLEEP”表示が消灯します。

再生中の音声を変えずに他の入力ソースの映像を再生する（ビデオセレクト機能）

音声はそのままに、映像入力をお好みの入力ソースに切り替えます。

再生したい映像が表示されるまで V.SEL を押す。

※ 解除する場合は、V.SEL で“SOURCE”を選んでください。

ご注意

- HDMI 入力信号は選べません。
- HDMI 信号を再生中、HDMI モニター出力端子に他の入力ソースは出力できません。
- “Source Delete”（☞31 ページ）で“Delete”に設定した入力ソースは選べません。
- “Assign (component)”（☞34 ページ）で“None”に設定している入力ソースは選べません。

各スピーカーの音量を調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各スピーカーの音量を調節することができます。

各スピーカーの音量を調節する。

1 CH LEVEL ○ を押す。

2 △▽ でスピーカーを選ぶ。
ボタンを押すたびに、スピーカーが切り替わります。

3 ◁ ▷ で音量を調節する。

※ サブウーハーの場合 "-12dB" のときに音量を下げる操作をおこなうと、"OFF（なし）" の設定になります。

ヘッドホンプラグを挿しているときは、ヘッドホン用の設定画面を表示します。

スピーカーの音量をまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / センタースピーカー / フロントハイトスピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のそれぞれの音量をまとめて調節（減衰）することができます。

1 CH LEVEL ○ または ▽ で "Fader" を選び、◁ または ▷ で調節する項目を選ぶ。

2 ◁ ▷ でスピーカーの音量を調節する。

- フェーダー機能は、サブウーハーには働きません。
- 一番小さい値に調節されているスピーカーの音量が、-12dB になるまで調節できます。

よく使う設定を記憶させる（クイックセレクト機能）

手順 1 の設定内容をまとめて記憶できます。よく使う設定を記憶させておくと、次回の設定が簡単におこなえます。また常に同じ再生環境でお楽しみいただくことができます。

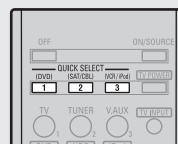
- 3 通りの設定ができます。

記憶のさせかた

1 下記を記憶させたい状態に設定する。

① 入力ソース（☞37ページ）
② 入力モード（☞35ページ）
③ サラウンドモード（☞40ページ）
④ Audysseyの設定（MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume）（☞43ページ）
⑤ フロントスピーカーの設定（☞29ページ）
⑥ 音量の設定（☞37ページ）
⑦ ビデオセレクトの設定（☞46ページ）

2 ディスプレイに "Memory" が表示されるまで、記憶させたい

を長押しする。

手順1で設定している内容を記憶します。

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
クイックセレクト1	DVD	-40dB
クイックセレクト2	SAT/CBL	-40dB
クイックセレクト3	VCR	-40dB

呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT (DVD) 1 (SAT/CBL) 2 (VCR / iPod) 3 を押す。

ご注意

"Source Delete"（☞31 ページ）で、クイックセレクトに記憶している入力ソースを削除すると、そのクイックセレクトの設定も削除されます。このような場合は、もう一度クイックセレクトを記憶させてください。

❑ クイックセレクトに名前をつけるには

"Quick Select Name"（☞32 ページ）をご覧ください。

各種メモリー機能

パーソナルメモリープラス機能

入力ソースごとに最後に設定していた内容（入力モード、サラウンドモード、MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volumeやオーディオディレイなど）を記憶します。

ラストファンクションメモリー機能

スタンバイになる直前の入力ソースを記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイになる直前のファンクションになります。

バックアップメモリー機能

電源を切ったり電源コードを抜いたりした場合でも、各種設定を約 1 週間保持します。

リモコンで接続した機器を操作する

プリセットコードを登録する

本機のリモコンに他の機器のプリセットコードを登録すると、本機のリモコンで他の機器を操作できるようになります。

❏ 操作時のご注意

プリセットコードの登録操作は、リモコンの送信部を本体に向けておこなってください。登録操作の状況を本体に表示します。

1 **登録する機器の SOURCE SELECT ボタン（下記）と ON/SOURCE を同時に 2 秒以上押す。**

ディスプレイに“RC SETUP START”を表示し、リモコンがプリセット登録モードになります。

- TV：テレビ
- DVD：DVD プレーヤーまたは CD プレーヤー
- HDP：ブルーレイディスクプレーヤー
- DVR：デジタルビデオレコーダー
- VCR：ビデオデッキ
- SAT/CBL：衛星チューナーまたはケーブルテレビ

2 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照して、登録する機器のメーカーの番号（3 桁）を 0 ～ 9 を押して入力する。**

- 登録が完了するとディスプレイに“RC SETUP OK”を表示します。
- 登録ができないときはディスプレイに“RC SETUP NG”を表示します。

3 **続けて他の機器の登録をおこなう場合は、操作 1、2 をくり返しおこなう。**

- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。
- DVD プレーヤー /CD プレーヤー、および衛星チューナー / ケーブルテレビ（SAT/CBL）は、どちらか片方の機器のみプリセット登録できます。

登録した機器を操作する

1 **TUNER/AMP・DEVICE・TV を操作する機器に切り替える。**

TUNER/AMP	：チューナーを操作する場合
DEVICE	：ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤー /CD プレーヤー / デジタルビデオレコーダー / ビデオデッキ /iPod/ 衛星チューナー / ケーブルテレビを操作する場合
TV	：テレビを操作する場合

2 **手順 1 で“DEVICE”を選んだときは、操作する機器の SOURCE SELECT ボタンを押す。**

- リモコンが操作する機器のデバイスモードになります。
- このとき、リモコンの送信部を本体に向けると、本体の入力ソースも同時に切り替わります。

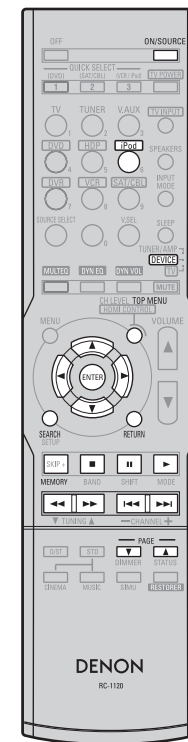
※ リモコンのデバイスモードは別の SOURCE SELECT ボタンを押すまで保持します。

3 **機器を操作する。**

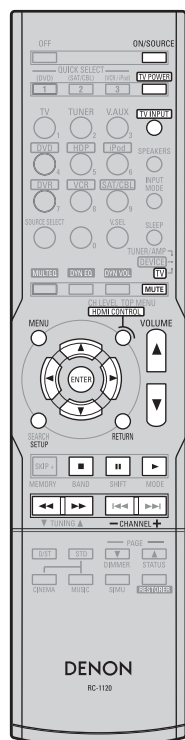
※ 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

iPod

操作モードの設定	TUNER/AMP・DEVICE・TV（DEVICE）	iPod
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ ＊1	
▶	再生 / 一時停止	
■	停止	
❚❚	一時停止	
MEMORY	お気に入り登録＊1	
TOP MENU	トップメニュー＊1	
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し／早送り）	
❙◀◀ ▶▶❙	オートサーチ（頭出し）	
△▽◁▷	カーソル	
ENTER	確定	
SEARCH	長押し	1回押し
	ブラウズ/リモートモードの切替	ページサーチモードの切替＊2
RETURN	リターン	
PAGE ▲ ▼	ページアップ / ダウン ＊1	

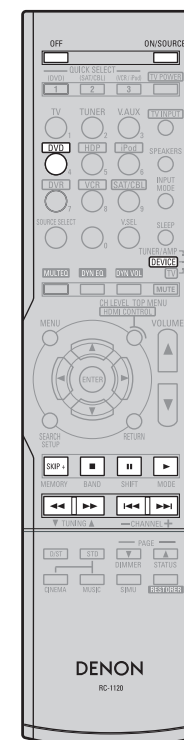
＊1：DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を使用しているときに操作できます。
＊2：DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R を使用しているときに操作できます。

テレビ

操作モードの設定	TUNER/AMP DEVICE TV
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ
TV/POWER	電源オン / スタンバイ ＊1
▶	再生 ＊2
❚❚	一時停止 ＊2
■	停止 ＊2
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ ＊2（早戻し／早送り）
CHANNEL + –	チャンネル（+、–）
TV INPUT	入力の切り替え ＊1
VOLUME ▲▼	▲：テレビ音量（+） ▼：テレビ音量（–）
MUTE	ミューティング
HDMI CONTROL	リンクメニュー
MENU	メニュー
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	設定の確定
SETUP	セットアップ
RETURN	リターン
初期設定（プリセットコード）	SONY（374）
特記事項	①

＊1：操作モードの設定が“TV”以外のときにも操作できます。
＊2：パンチスルー機能（☞50 ページ）が設定されているときは、パンチスルーに設定した機器用のボタンとして動作します。

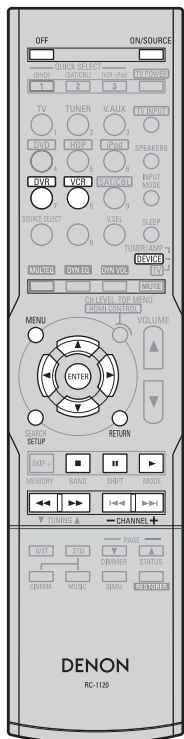
ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤー

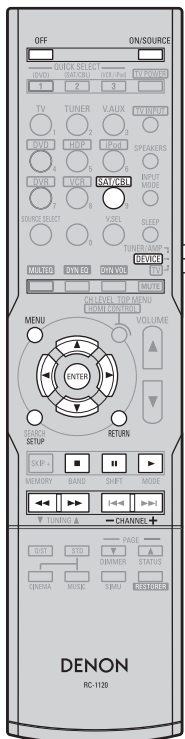
操作モードの設定	TUNER/AMP DEVICE TV　HDP ○ または DVD ○	
OFF	スタンバイ	
ON/SOURCE	電源オンまたは電源オン／スタンバイ	
▶	再生	
■	停止	
❚❚	一時停止	
SKIP +	BDプレーヤー	DVDプレーヤー
	–	ディスクスキップ
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）	
❙◀◀ ▶▶❙	オートサーチ（頭出し）	
MENU	BDプレーヤー	DVDプレーヤー
	ポップアップメニュー	メニュー
△▽◁▷	カーソル操作	
ENTER	設定の確定	
SETUP	セットアップ	
RETURN	リターン	
TOP MENU	トップメニュー	
初期設定（プリセットコード）	BD Player	DVD Player
	DENON（111）	DENON（111）
特記事項	①, ②	

CD プレーヤー

操作モードの設定	TUNER/AMP DEVICE TV　DVD ○
OFF	スタンバイ
ON/SOURCE	電源オンまたは電源オン／スタンバイ
▶	再生
■	停止
❚❚	一時停止
SKIP +	ディスクスキップ＋
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
❙◀◀ ▶▶❙	オートサーチ（頭出し）
初期設定（プリセットコード）	–
特記事項	①

【特記事項】

① それぞれのモードには、一つの機器のみプリセット登録できます。
また、新しいコードをプリセット登録すると、前の登録は自動的に消去されます。
② DVD のリモコンボタンは、メーカーによって機能名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

デジタルビデオレコーダー / ビデオデッキ

操作モードの設定	TUNER/AMP DEVICE TV　DVR または VCR	
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ	
▶	再生	
■	停止	
❙❙	一時停止	
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）	
CHANNEL + –	チャンネル切り替え（+、–）	
MENU	メニュー	
△▽◁▷	カーソル操作	
ENTER	設定の確定	
SETUP	セットアップ	
RETURN	リターン	
初期設定（プリセットコード）	デジタルビデオレコーダー	ビデオデッキ
	JVC (001)	HITACHI (111)
特記事項	①, ②	

衛星チューナー / ケーブルテレビ

操作モードの設定	TUNER/AMP DEVICE TV　SAT/CBL	
ON/SOURCE	電源オン / スタンバイ	
▶	再生 *	
❙❙	一時停止 *	
■	停止 *	
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ *（早戻し / 早送り）	
CHANNEL + –	チャンネル切り替え（+、–）	
△▽◁▷	カーソル操作	
ENTER	設定の確定	
MENU	ガイドメニュー	
SETUP	セットアップ	
RETURN	リターン	
初期設定（プリセットコード）	衛星チューナー	ケーブルテレビ
	Direc TV (095)	–
特記事項	①	

*：パンチスルー機能（☞50ページ）が設定されているときは、パンチスルーに設定した機器用のボタンとして動作します。

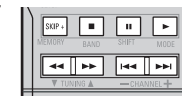
【特記事項】

① それぞれのモードには、一つの機器のみプリセット登録できます。
　また、新しいコードをプリセット登録すると、前の登録は自動的に消去されます。

② DVD のリモコンボタンは、メーカーによって機能名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

使用しないボタンに他の機器の操作を割り当てる（パンチスルー機能）

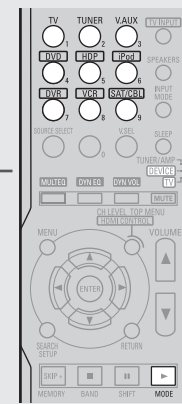
リモコンのデバイスモードが “TV” または “SAT/CBL” のときに、リモコンのデバイスモードを切り替えずに “TUNER”、“DVD”、“HDP”、“iPod”、“DVR”、“VCR” の次の操作ができます。

- “TV” と “SAT/CBL” のデバイスモードには、それぞれ 1 つのデバイスを割り当てることができます。
- 割り当てることができるボタン

1 **パンチスルー機能を登録させるデバイスボタン（TV または SAT/CBL）と MODE ▶ を同時に 2 秒以上押す。**

- ディスプレイに“RC SETUP START” 表示します。

2 **割り当てる機器の SOURCE SELECT ボタンを押す。**

- 登録が完了すると “RC SETUP OK” を表示します。

※ 登録ができないときはディスプレイに “RC SETUP NG” を表示します。再度おこなってください。

パンチスルー設定後に “TV” や “SAT/CBL” のプリセットコードを変更すると、パンチスルーの設定を解除します。

その他の情報

サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンドフォーマット

Dolby Digital（ドルビーデジタル）

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus（ドルビーデジタルプラス）

Dolby Digital Plus は、ドルビーデジタルを改良した信号フォーマットで、最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来のドルビーデジタルに対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD（ドルビー TrueHD）

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
サンプリング周波数とチャンネルも最大 96kHz/7.1ch に対応し、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic Ⅱ（ドルビープロロジック Ⅱ）

Dolby Pro Logic Ⅱ は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz ～ 20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic Ⅱx（ドルビープロロジック Ⅱx）

Dolby Pro Logic Ⅱx は、Dolby Pro Logic Ⅱ をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

Dolby Digital EX（ドルビーデジタル EX）

ドルビーデジタル EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット “DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1ch のサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1ch での音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Pro Logic Ⅱz（ドルビープロロジック Ⅱz）

ドルビープロロジックⅡ z は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント･ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画／音楽／ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

DTS サラウンドフォーマット

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1ch のデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、最大 96kHz/7.1ch に対応し、さらにロスレス音声符号化技術によってマスター音声の忠実な再現を可能としています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1ch のデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1ch 音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS NEO:6™ サラウンド

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した「DTS NEO:6 Cinema」と、音楽再生に適した「DTS NEO:6 Music」があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第5,451,942号､5,956,674号､5,974,380号､5,978,762号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929号、7,392,195 号、7,272,567 号、その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD Master Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. ©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。

Audyssey

Audyssey MultEQ®

Audyssey MultEQ は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQ は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Audyssey Dynamic EQ™

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume™

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

AUDYSSEY MULTEQ DYNAMIC VOLUME

本機は、Audyssey Laboratories からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ™ および Audyssey Dynamic Volume™ は、Audyssey Laboratories の商標です。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❑ MPEG-2 AAC のスペック（概要）

- アルゴリズム
  MAIN プロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数
  8kHz から 96kHz まで対応
- チャンネル数
  最大 48 チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能
  LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❑ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンドパラメーター 一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード																
	チャンネル出力						パラメーター ※（ ）内は初期値										
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	フロント ハイト左 / 右	サブ ウーハー	D. Comp ＊1	LFE ＊2	AFDM ＊1	SB CH Out	Cinema EQ.	Mode	Room Size	Effect	Delay time	Subwoofer	DRC ＊3
DIRECT	○	◎	◎	◎	×	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	○	○ (Auto)
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	×	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (Auto)
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	×	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	×	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注1)	○ (Cinema)	×	×	×	×	○ (Auto)
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	×	×	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注2)	○ (Cinema)	×	×	×	×	○ (Auto)
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎	×	◎	◎	○ (OFF)	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	×	◎	○ (OFF)	×	×	○	○ (注1)	○ (Cinema)	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	○ (Auto)
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	○ (0dB)	○ (ON)	○	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
5CH/7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	×	×
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	○	×	×	×	×	○ (30 ms)	×	×
VIRTUAL	○	×	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×

○：信号あり / 制御可能
×：信号なし / 制御不可能
◎：スピーカー有り無しの設定により、オン / オフ可能

○： 信号あり / 制御可能
×： 信号なし / 制御不可能
注 1：Mode”の設定（☞41 ページ）が“Cinema”のときに選べます。
注 2：Mode”の設定（☞41 ページ）が“Cinema”または“PL”のときに選べます。

ご注意

＊1：Dolby Digital および DTS 信号再生時
＊2：Dolby Digital、DTS およびリニア PCM（マルチチャンネル）
＊3：Dolby TrueHD 信号再生時

サラウンドモード	信号と調節可能なモード								
	パラメーター　※（　）内は初期値								
	PRO LOGIC II/IIx MUSICモードのみ			NEO:6 MUSICモードのみ	Tone (注4)	MultEQ	Dynamic EQ (注5)	Dynamic Volume (注6)	RESTORER (注7)
	Panorama	Dimension	C. Width	Center Image					
DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	×	×	×	×	×	○ (注4)	○ (注4)	○ (注4)	×
STEREO	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MULTI CH IN	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY PRO LOGIC II	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY PRO LOGIC IIz	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS NEO:6	×	×	×	○ (0.3)	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
DOLBY DIGITAL	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY DIGITAL Plus	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DOLBY TrueHD	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS SURROUND	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS-96/24	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
DTS-HD	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	×
MPEG2 AAC	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
5CH/7CH STEREO	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
ROCK ARENA	×	×	×	×	○ (注3)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
JAZZ CLUB	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MONO MOVIE	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
VIDEO GAME	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
MATRIX	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○
VIRTUAL	×	×	×	×	○ (0dB)	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (OFF)	○

○：　制御可能
×：　制御不可能
注 3：BASS +6dB, TREBLE +4dB
注 4：“Dynamic EQ”の設定（☞43 ページ）が“ON”の場合は、設定できません。
注 5：“MultEQ”の設定（☞43 ページ）が“OFF”の場合は、設定できません。
注 6：“Dynamic EQ”の設定（☞43 ページ）が“OFF”の場合は、設定できません。
注 7：“RESTORER”は入力信号が、アナログまたは PCM48k、44.1k の場合に設定できます。

ご使用になる前に
接続
セットアップ
再生
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号																		
			PCM		DTS-HD		DTS				DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC		
		アナログ	リニアPCM (multi ch)	リニアPCM (2ch)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)
STANDARD																				
DTS SURROUND																				
DTS-HD MSTR		×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS-HD HI RES		×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES DSCRT6.1	*1 *3	×	×	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1 *3	×	×	×	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	×	×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIz	*1 *4	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + NEO:6	*1 *3	×	×	×	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DTS NEO:6 MUSIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY SURROUND																				
DOLBY TrueHD		×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY (D+) (HD) +EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	*2 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	● ◎	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIz	*1 *4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIz	*4	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC		○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
AAC																				
AAC + DOLBY EX	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
AAC + PL IIx CINEMA	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
AAC + PL IIx MUSIC	*1 *3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
AAC + PL IIz	*1 *4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
MPEG2 AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●

注 *1：サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、選べません。
*2：サラウンドバックスピーカーを“1ch”または“None”に設定している場合は、選べません。
*3：“Pre Assign”の設定が“Normal”以外の場合は、選べません。
*4：“Pre Assign”の設定が“Front Height”以外の場合は、選べません。

●：初期状態で選ばれるモード
◎：“AFDM”が“ON”に設定されているときに固定されるモード
○：選択可能なモード
×：選択不可能なモード

ご使用になる前に
接続
セットアップ
再生
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号 アナログ	PCM リニアPCM (multi ch)	PCM リニアPCM (2ch)	DTS-HD DTS-HD Master Audio	DTS-HD DTS-HD High Resolution Audio	DTS DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS DTS (5.1ch)	DTS DTS 96/24	DOLBY DOLBY TrueHD	DOLBY DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL (2ch)	MPEG-2 AAC AAC (5.1ch)	MPEG-2 AAC AAC (2ch)	MPEG-2 AAC AAC (1+1ch)
STANDARD																				
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN		×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + PLIIz	*1 *5	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI IN + Dolby EX	*1 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN 7.1	*3	×	● ◎ (7.1)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DIRECT																				
DIRECT		○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MULTI CH DIRECT		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + PLIIx CINEMA	*2 *3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + PLIIx MUSIC	*1*3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + PLIIz	*1*5	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT + Dolby EX	*1*3	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
M DIRECT 7.1	*3	×	○ (7.1)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DSP SIMULATION																				
5CH/7CH STEREO	*4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注

*1：サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、選べません。
*2：サラウンドバックスピーカーを“1ch”または“None”に設定している場合は、選べません。
*3：“Pre Assign”の設定が“Normal”以外の場合は、選べません。
*4：サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、“5CH STEREO”を表示します。
*5：“Pre Assign”の設定が“Front Height”以外の場合は、選べません。

●：初期状態で選ばれるモード
◎：“AFDM”が“ON”に設定されているときに固定されるモード
○：選択可能なモード
×：選択不可能なモード

故障かな？と思ったら

❑ 各接続は正しいですか
❑ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❑ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
本機が正常に動作しない。	●外部からのノイズや妨害によって本機が誤動作している。	●マイコンを初期化してください。	59
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●本機のリアパネルおよび電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	19
スピーカーから音が出ない。	●入力機器との接続またはスピーカーケーブルの接続が不完全である。	●接続を確認してください。	14
	●再生したい機器と入力ソースが合っていない。	●接続を確認して、適切な入力ソースを選んでください。	37
	●主音量が小さすぎる。	●主音量を適切な大きさに調節してください。	37
	●消音（ミューティング）モードになっている。	●消音（ミューティング）モードを解除してください。	39
	●ヘッドホンを接続している。	●ヘッドホンを外してください。ヘッドホンを接続していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。	39
	●デジタル信号が入力されていない。	●接続を確認し、デジタル入力の設定をした入力ソースを選んでください。	34
	●デジタル入力端子が割り当てられている端子と入力モードが合っていない。	●入力モードを設定してください。	35
ディスプレイの表示が消える。	●ディマー機能で、本機のディスプレイ表示を“OFF”にしている。	●“OFF”以外の設定にしてください。	39

症 状	原 因	対 策	関連ページ
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの取扱説明書をお読みください。	—
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	●機器内部の温度上昇により、保護回路が働いている。	●一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	—
		●本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	—
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	●指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用している。	●スピーカーは、指定のインピーダンスのものを使用してください。	15
	●スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いている。	●電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどとした後で、もう一度接続し直してください。	15
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	●本機のアンプ回路が故障している。	●電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	—
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。	●新しい乾電池と交換してください。	6
	●本体から離れすぎているか、角度が良くない。	●リモコンは、本機から約 7 メートルおよび 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	●本機とリモコンの間に障害物がある。	●障害物を取り除いてください。	6
	●乾電池の ⊕ と ⊖ が正しくセットされていない。	●正しい極性でセットしてください。	6
	●本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっている。	●受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	6
	●デバイス選択スイッチが正しい位置に設定されていない。	●デバイス選択スイッチを操作する用途にあわせて正しい位置に設定してください。	48
	●リモコンのデバイスモード設定の操作をおこなっていない。	●操作の前に操作する機器のデバイスモードにしてください。	48

【オーディオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
センタースピーカーから音が出ない。	●テレビなどのモノラル音源を、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）モードで再生している。	●モノラル音源を再生する場合は、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）以外のサラウンドモードを選んでください。	39
サラウンドスピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードが、2 チャンネル再生用（“STEREO”または“DIRECT”）になっている。	●サラウンド再生用のモードにしてください。	40
サブウーハーから音が出ない。	●サブウーハーの電源が入っていない。 ●“Speaker Config.” の “Subwoofer” を “No” に設定している。 ●サブウーハーが正しく接続されていない。 ●サブウーハーの音量が小さくなっている。	●サブウーハーの電源を入れてください。 ●“Subwoofer” の設定を “Yes” にしてください。 ●接続を確認してください。 ●サブウーハーのチャンネルレベルを上げてください。	— 27 14 47
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	●“S.Back” の設定が “None” になっている。 ●6.1/7.1 チャンネル再生用のサラウンドモードになっていない。 ●“Parameter” – “Surround Parameter” – “Surround Back” が “OFF” に設定されている。 ●プリアウトの割り当てがサラウンドバックスピーカーになっていない。	●“S.Back” を “None” 以外に設定してください。 ●サラウンド再生用のモードを選んでください。 ●“Parameter” – “Surround Parameter” – “Surround Back” を “OFF” 以外に設定してください。 ●プリアウトの割り当てをサラウンドバックスピーカーにしてください。	28 39 42 27
DTS 音声が出力されない。	●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。 ●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。 ●入力モードの設定が、“PCM” になっている。	●ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの設定をしてください。詳しくは、ブルーレイディスク /DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ●DTS 対応のプレーヤーをお使いください。 ●デコードモードを “Auto” または “DTS” にしてください。	— — 35
HDMI の音声信号がスピーカーから出力されない。	●“Manual Setup” – “HDMI Setup” – “HDMI Audio Out” の設定が “TV” になっている。	●“AMP” に設定してください。	30
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	●“Manual Setup” – “HDMI Setup” – “HDMI Audio Out” の設定が “AMP” になっている。	●“TV” に設定してください。	30
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	●HDMI 接続をしていない。 ●ブルーレイディスクプレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。 ●ブルーレイディスクプレーヤーが DTS 音声の再生に対応していない。	●HDMI 接続をしてください。 ●ブルーレイディスクプレーヤーの音声出力を設定してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 ●DTS 対応のブルーレイディスクプレーヤーをお使いください。	16 — —

【ビデオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
映像が映らない。	●本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続が不完全である。 ●本機と接続したテレビの入力端子が入力設定と合っていない。 ●プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でテレビとの接続がビデオ端子（黄）になっている。	●接続を確認してください。 ●テレビの入力端子と入力設定を合わせてください。 ●ハイビジョン（1080i/720p）やプログレッシブ映像信号（480p/576p）は、ダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレース（480i/576i）の設定にしてください。 ●ビデオセレクト機能で HDMI のソースは選べません。	16 ～ 19 — — 46
録画ができない。	●入力ソースとレコーダーのビデオ接続端子（ビデオ）が一致していない。	●RECOUT のビデオ端子にはビデオコンバート機能が無いので、入力がビデオの場合はビデオケーブルで、接続してください。	18
DVD から VCR にダビングできない。	—	●故障ではありません。ほとんどの映画ソフトには、コピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	—

症 状	原 因	対 策	関連ページ
メニュー画面や状態表示を表示しない。		●本機を通して HDMI またはコンポーネントビデオ信号をご覧の場合は、本体の **MENU** ボタンまたはリモコンの **MENU** ボタンを操作したときに、メニュー画面を表示します。	12
	●状態表示が"OFF"になっている。	●"Manual Setup" - "Option Setup" - "On-Screen Display" - "Text" を "ON" に設定してください。	31
	●主音量の表示が"OFF"になっている。	●"Manual Setup" - "Option Setup" - "On-Screen Display"-"Master Volume"を"ON"に設定してください。	31
	●iPod 操作時の表示が"OFF"になっている。	●"Manual Setup" - "On-Screen Display" - "iPod Information"を"OFF"以外に設定してください。	32

【HDMI】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
HDMI オーディオ信号がスピーカーに出力されない。	●HDMI の入力設定が合っていない。	●HDMI オーディオ信号をスピーカーから出力するときは、"AMP"に設定してください。	30
HDMI 接続で映像が映らない。	●HDMI 端子の接続が不完全である。	●接続を確認してください。	16
	●HDMI の入力設定が合っていない。	●"Input Setup" – "Assign" – "HDMI In" で HDMI 端子を割り当てた入力ソースを選んでください。	34
	●本機に接続されたテレビなどが、著作権保護（HDCP）に対応していない。	●著作権保護（HDCP）に対応したテレビを接続してください。	15
	●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とテレビ側の入力対応フォーマットが合っていない。	●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とテレビの入力対応フォーマットが合っているかを確認してください。	15
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	●HDMI の入力設定が合っていない。	●HDMI オーディオ信号をテレビから出力するときは、"TV"に設定してください。	30

症 状	原 因	対 策	関連ページ
接続機器に以下の操作をすると、本機も同じ動作をする。 ●電源の入/切 ●音声を出力する機器の切り替え ●音量の調節 ●入力ソースの切り替え	●HDMI の CEC 機能が働いている。	●Manual Setup" – "HDMI Setup" – "HDMI Control" を "OFF" に設定してください。 各機器の電源の入/切のみ操作したい場合は、"Power Off Control" を "OFF" に設定してください。	30

【iPod】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
iPod が再生できない。	●iPod Dock を割り当てた入力ソースと合っていない。	●iPod Dock を割り当てた端子に接続し、入力ソースを切り替えてください。	34
	●ケーブルが正しく接続されていない。	●接続をやり直してください。	17
	●iPod 用コントロールドックの AC アダプターがコンセントに挿入されていない。	●AC アダプターを挿入していない場合は、本機と通信することができません。	—

すべての設定をお買い上げ時の設定に戻す（マイコンの初期化）

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

1 ⎯ON ■OFF を押して電源を切る。

2 SURROUND MODE と SURROUND MODE を同時に押しながら、⎯ON ■OFF を押す。

3 ディスプレイの表示が約1秒間隔で点滅したら、2つのボタンから指を離す。

手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、もう一度操作 1 からやり直してください。

保障と修理について

保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

❑ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

❑ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

修理を依頼されるとき

❑ 修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

❑ 修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名…… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号… 保証書または製品背面（または底面や側面）に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑オーディオ部

●パワーアンプ部

定格出力：	フロント（A、B）：	75 W+75 W
	センター：	75 W
	サラウンド：	75 W+75 W
		（負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08%）
実用最大出力：	フロント（A、B）：	130 W+130 W
	センター：	130 W
	サラウンド：	130 W+130 W
		（負荷 6 Ω、1 kHz T.H.D 10%、JEITA）
出力端子：	フロント：	A または B　6 ～ 16 Ω
		A + B　12 ～ 16 Ω
	センター / サラウンド：	6 ～ 16 Ω

●アナログ部

入力感度 /
入力インピーダンス： 200 mV/47 k Ω
周波数特性： 10 Hz ～ 100 kHz：+1、–3 dB（DIRECT モード時）
S/N 比： 98 dB（JIS-A）（DIRECT モード時）

❑ビデオ部

●標準映像端子

入出力レベル /
インピーダンス： 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性： 5 Hz ～ 10 MHz：+1、–3 dB

●色差（D）映像端子

入出力レベル /
インピーダンス： Y（輝度）信号：　1 Vp-p/75 Ω
PB/CB（青色）信号：0.7 Vp-p/75 Ω
PR/CR（赤色）信号：0.7 Vp-p/75 Ω
周波数特性： 5 Hz ～ 60 MHz：+0、–3 dB

❑総合

電源： AC100 V　50/60 Hz
消費電力： 195 W（電気用品安全法による）
0.3 W（スタンバイ時）
最大外形寸法： 434（幅）× 171（高さ）× 377（奥行き）mm
質量： 9.2 kg

❑リモコン（RC-1120）

乾電池： R03（単 4 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法： 50（幅）× 211（高さ）× 22（奥行き）mm
質量： 110 g（乾電池を含む）

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※ 本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

DEVICE SELECT : TV

Television

A

Brand	Code
A.R. Systems	284
Accent	276, 284
Accuscan	224
Action	188, 268
Acura	276
Addison	238
ADL	349
Admiral	045, 233, 213, 218, 224, 233, 239, 244, 252
Advent	219, 242, 280, 287, 288, 293
Adventura	032
Adventuri	235
Agna	182
Aiko	238, 276, 284, 316
Aim	241, 284
Aiwa	172, 216, 264, 380, 400, 413, 414
Akai	016, 186, 188, 190, 193, 209, 235, 237, 246, 253, 254, 274, 276, 284, 300, 316
Akashi	276
Akiba	284
Akito	284
Akura	214, 276, 284, 356
Alaron	319
Alba	209, 276, 284
Albatron	186, 248
Alfide	246
Alleron	062, 188, 319
Allstar	284
All-Tel	249
A-Mark	218, 224, 276
Ambassador	182, 320
America Action	239
American High	235, 237
Ampro	261
Amstrad	214, 235, 276, 272, 284, 320
Amtron	235, 239
Anam	006, 036, 177, 186, 239, 276, 284, 299
Anam National	036, 177, 239, 268, 284
Anglo	276
Anhua	213
Anitech	276, 284
Ansonic	276, 284
AOC	048, 133, 184, 188, 193, 233, 235, 237, 238, 239, 276, 299, 319
Apex Digital	170, 192, 194, 259
Archer	276
Asora	276
Audiovox	276
Awa	184, 272
Axion	301, 302
Axxent	276

B

Brand	Code
Baihe	276
Baile	185, 276
Baird	284
Basic Line	276, 284
Bauer	023
Baur	284
Baysonic	239, 240, 252
Beaumark	188, 193, 244
Beijing	185, 254, 276, 280, 283
Beko	284
Belcor	188, 235
Bell & Howell	045, 191, 218, 233, 244
BenQ	198, 205
Beon	284
Bestar	284
Blaupunk	319
Blue Sky	221, 284, 291
Boots	276
Boxlight	346
BPL	284
Bradford	239
Brinkmann	284
Brionvega	284
Brockwood	188, 193, 235
Broksonic	172, 209, 239, 240, 252, 320, 361
Bush	185, 276, 284

C

Brand	Code
Caihong	276, 280
Cailing	170
Candle	030, 032, 050, 188, 193, 235, 319
Capehart	188, 193, 238, 244
Capetronic	188
Carena	284
Carnivale	188
Carrefour	284
Carver	218, 319
Cascade	276, 284
Casio	284
Cathay	284
CCE	284
Celebrity	193, 235
Celera	259
Celestial	194
Centurion	284
Changcheng	185, 213, 276, 280
Changfei	276, 280
Changfeng	280
Changhai	276, 280
Changhong	192, 194, 201, 259, 276, 280, 287
Chengdu	276, 280
Ching Tai	238, 276
Chun Yun	186, 235, 238, 239, 248, 276
Chunfeng	276
Chung Hsin	173, 239
Chunsun	276, 280
Cimline	276
Cinema	246
Cineral	184, 238
Circuit City	193
Citek	224
Citizen	023, 030, 032, 034, 050, 123, 184, 188, 193, 209, 214, 218, 235, 237, 238, 239, 252, 316, 319
City	276
Clarion	239
Clarivox	284
Classic	188, 238
Clatronic	276, 284
Colortyme	188, 193, 218, 224, 235, 237, 244, 319
Commercial Solutio	229
Commercial Solutions	224
Concerto	193, 235
Concorde	276
Condor	276, 284
Conia	356
Conic	193
Conrowa	190, 192, 201, 276
Contec	013, 023, 041, 239, 276, 284
Cony	023, 041, 239
Cosmel	276, 284
Craig	214, 239
Crosley	188, 214, 218, 235, 239
Crown	023, 173, 233, 239, 246, 276, 284
Crown Mustang	246
CTX	205
Curtis Mathes	023, 034, 044, 053,184, 188, 190, 191, 193, 210, 213, 218, 224, 226, 228, 233, 235, 237, 239, 253, 282, 284, 316, 319
CXC	239

D

Brand	Code
Daenyx	239, 246
Daewoo	023, 048, 107, 184, 185, 186, 187, 188, 191, 193, 205, 215, 237, 238, 239, 246, 249, 258, 276, 284, 299, 319, 388, 389, 395
Dansai	276, 284, 316
Dawa	276, 284
Daytek	246
Daytron	188, 193, 238, 239, 276, 284
Dayu	185
Decca	284
Dell	220, 348
Denon	190, 322
Denstar	299
Denver	284, 285
Desmet	276, 284
Dewo	299
Diamant	284
Diamond	241, 246, 276
Digatron	284
Digiline	284
Digital Life	340
Digitor	284
Dimensia	044
Dixi	027, 222, 276, 284
DL	285, 340
Dongda	276
Donghai	276
Dream Vision	359
Drean	284
DTS	276
Dual	284
Dumont	193, 239, 244
Durabrand	171, 193, 214, 239, 251, 252
Dux	284
D-Vision	284
Dwin	233, 297
Dynatron	284

E

Brand	Code
Eaton	237
ECE	284
Elbe	284
Electroband	193, 235
Electrograph	215
Electrohome	023, 036, 058, 182, 188, 191, 193, 235, 240, 252, 274
Elekta	276
Elektra	187, 244
ELG	284
Elin	276, 284
Elite	284
Elta	027, 276
Emerald	193, 320
Emerson	023, 060, 062, 123, 124, 148, 172, 173, 182, 184, 191, 193, 214, 239, 224, 244, 251, 284, 239, 240, 252, 258, 319, 320, 362
Envision	188, 319, 329
Epson	331, 333
Erres	284
ESA	214, 254, 362
ESC	284
Ether	188, 276
Etron	027, 276
Euroman	284
Europa	284
Europhon	284
Evolution	205
Exquisit	284

F

Brand	Code
Feilang	276
Feilu	276, 280
Feiyue	276, 280
Fenner	276
Ferguson	173, 209, 284
Fidelity	214, 284
Finlux	284
Firstar	240, 276
Firstline	276, 284
Fisher	021, 191, 218, 224, 235
Flint	284
Formenti	023, 284
Fortress	233
Fraba	284
Friac	276, 284
Frontech	276
Fujimaro	249, 356
Fujitsu	062, 178, 179, 180, 214, 276
Fujitsu General	178, 276
Fujitsu Siemens	179
Funai	062, 214, 216, 235, 239, 396, 397
Furi	190, 280
Futuretech	066, 239

G

Brand	Code
Galaxi	284
Galaxis	284
Ganxin	280
Gateway	205, 215
GBC	276
GE	034, 036, 044, 058, 066, 088, 184, 188, 193, 222, 213, 224, 226, 228, 229, 231, 233, 234, 235, 237, 238, 239, 316
GEC	284
Geloso	276
Gemini	224
General Electric	224
General Technic	276
Genesis	276, 284
Genexxa	276, 284
Gericom	249, 349
Giant	276
Gibralter	188, 235, 244
Go Video	237, 344

Brand	Code
Go Vision	301
Goldstar	023, 048, 133, 188, 191, 193, 213, 222, 224, 240, 275, 276, 284, 290
Goodmans	185, 235, 272, 276, 284, 285, 316
Gradiente	173, 284, 319
Granada	283, 284
Grandin	249, 276, 284
Grundig	178, 209, 241, 246, 285
Grundy	062, 139

H

Brand	Code
Haaz	241
Haier	171, 267, 287, 285
Haihong	276
Haiyan	280
Hallmark	193, 239, 240
Hankook	188, 193, 239, 299
Hanseatic	185, 276, 284
Hantarex	249, 276, 284
Hantor	284
Harley Davidson	188, 193, 216, 235, 237, 239
Harman/Kardon	218
Harsper	249
Harvard	239
Harwood	276, 284
Hauppauge	284
Havermy	233
HCM	276, 284
Heathkit	244
Helios	249
Hello Kitty	184
Hema	276
Highline	184
Himitsu	239, 299
Hinari	276, 284
Hisense	170, 190, 192, 201, 276, 291
Hitachi	023, 041, 070, 124, 182, 188, 190, 192, 193, 199, 201, 202, 208, 213, 216, 218, 224, 235, 238, 244, 274, 284, 316, 376, 384, 385, 386, 394, 408, 409, 410, 412
Hitachi Fujian	182
Hitachi Pay TV	151
Hitsu	276
Hoeher	249
Hongmei	233, 276, 280
Hongyan	280
Hornyphon	284
Hua Tun	276
Huafa	190, 276
Huanghaimei	276
Huanghe	276, 280
Huanglong	276
Huangshan	276, 280
Huanyu	280
Huari	190
Hugoson	309, 349
Huodateji	213
Hyper	276
Hypson	284
Hyundai	195, 249

I

Brand	Code
Iberia	284
ICE	284
Iiyama	309, 349
Ima	193, 239, 240
Imperial	284
Imperial Crown	185, 276
Indiana	284
Infinity	017, 218, 222
Ingersol	276
Inno Hit	276
Innova	284
Innowert	249
Insignia	214
Inteq	190, 244
Interbuy	276, 284
Interfunk	184
Internal	184
Intervision	276, 284
Irradio	276, 284
IRT	184, 187, 299
Isukai	184
ITS	184
ITT Nokia	239
ITV	284

J

Brand	Code
Janeil	032
JBL	018, 218, 222
JC Penny	034, 041, 044, 048, 050, 058, 066, 088, 094, 192, 193, 237, 275
JCB	193, 235
Jean	192, 213, 238, 240, 276
JEC	316
Jensen	242, 280, 288, 293
Jiahua	213
JiaLiCai	276
JIL	188
Jinfeng	213, 283
Jinque	276, 280
Jinta	276
Jinxing	190, 192, 218, 276, 280, 284
Juhua	280
Jutan	188
JVC	023, 041, 072, 073, 173, 174, 175, 176, 178, 188, 218, 233, 252, 268

K

Brand	Code
Kaige	276, 280
Kaisui	276, 284
Kamp	239, 244
Kangli	185, 276, 280
Kangyi	276
Kawasho	018, 188, 193
KDS	356
KEC	237, 239
Ken Brown	240, 252
Kendo	284
Kenia	188
Kenwood	188, 193, 239, 240, 319
Khind	241
Kioto	218, 241, 284
KLH	192
KLL	284
Kloss	005, 032, 188
Kloss Novabeam	005, 032, 101
Kneissel	284
Kolin	173, 182, 239, 355
Kolster	284
Kongque	276, 280
Konichi	276
Konig	284
Konka	239, 263, 265, 266, 280, 284, 285, 286, 297, 299
Korpel	284
Kosmos	284
Kost	278
Koyoda	276
KTV	074, 123, 188, 239, 252
Kuaile	276
Kulun	276
Kunlun	185, 213, 280, 283

L

Brand	Code
L&S Electronic	249
Lark	191
Leader	276
Lecson	284
Legend	276
Lenco	284, 285
Lenoir	276
Leyco	284
LG	188, 193, 186, 196, 218, 237, 276, 284, 290, 348, 351, 360, 387, 394
Liesenk & Tter	284
Liesenkotter	284
Lifetec	178, 276, 284
Lihua	280
Lloyd's	188, 216, 239, 240, 276
Local Chennai TV	276
Local India TV	276
Loewe	222, 284
Logik	045, 237, 239, 240, 349, 272, 276
Longjiang	280
Luma	276
Lumatron	284
Lux May	276, 284
Luxman	193
LXI	017, 034, 044, 075, 103, 188, 191, 192, 193, 210, 213, 214, 218, 222, 224, 233, 235, 237, 244, 284, 316

M

Brand	Code
M & S	218
M Electronic	185, 276, 284
Madison	284
MAG	356
Magnadyne	218
Magnasonic	235, 188, 218, 238, 233, 192
Magnavox	005, 017, 030, 050, 079, 085, 089, 101, 108, 110, 177, 188, 191, 193, 213, 214, 215, 216, 218, 221, 222, 224, 237, 238, 235, 239, 241, 272, 284, 316, 319, 328, 362
Magnum	284
Majestic	244
Manesth	316, 284
Manhattan	284
Marantz	017, 193, 188, 284, 218, 324, 289, 290, 222
Mark	276, 284
Mastro	173, 241
Masuda	276, 284
Matsui	022, 276, 272, 316, 284, 320
Matsushita	213, 177, 268
Matsuviama	285
Maxent	205, 215
MCE	276
Mediator	284
Medion	284
Megapower	186
Megatron	276, 224, 190, 274, 193
Meile	180
Memorex	027, 045, 276, 188, 316, 284, 237, 182, 191, 193, 239, 177, 252, 172
Memphis	276
Mercury	276, 284, 237
Mermaid	284
Metz	160, 161, 162, 284, 285
MGA	182, 193, 048, 240, 058, 021, 018, 188
MGN Technology	193
Micro Genius	182
Micromaxx	284
Midland	034, 244, 224, 213
Minato	284
Minoka	284
Minutz	066
Mitsubishi	016, 021, 048, 058, 081, 105, 177, 182, 188, 191, 193, 233, 234, 239, 240, 272, 277, 280, 281, 284, 369, 385, 386, 394
Monaco	276
Monivision	186, 248
Montgomery Ward	011, 066, 101, 144, 235
Morgan's	284
Motorola	036, 182, 213, 218, 233
MTC	034, 048, 188, 193, 237, 238, 239, 272
Mudan	276, 213, 283, 280
Multitec	284
Multitech	276, 284, 239
Mx Onda	356

N

Brand	Code
NAD	075, 192, 193, 201, 210, 211, 212, 284
Naiko	284
Nakimura	284
Nanbao	276
Nansheng	280
NAT	283
National	036, 213, 239, 283
National Quenties	283
NEC	319, 036, 048, 173, 185, 188, 191, 192, 193, 213, 224, 240, 276, 272, 280, 319, 321, 323, 324, 342, 359
Neckermann	284
NEI	284
Neovia	249
Netsat	284
NetTV	215
Neufunk	276, 284
New Tech	276, 284
Newave	276, 238, 233, 193
Nikkai	276, 316, 284
Nikko	188, 238, 193
Nikkodo	188, 238, 193
Nishi	188
Noblex	284, 191
Nokia	239
Norcent	170, 247
Nordmende	284
Normerel	284
Novatronic	284
NTC	238
Nyon	235

O

Brand	Code
Okano	276, 284
Olevia	347, 350, 355, 358
Omni	170, 340
Onida	173, 175
Onwa	239
Opera	284
Optimus	211, 188, 233, 182, 191, 210, 193, 239, 177, 268
Optoma	345
Optonica	011, 233
Orbit	284
Orion	214, 272, 244, 284, 320, 193, 239, 240, 252, 251, 172
Orline	284

	Brand	Code
	Osaki	284
	Osio	284
	Osume	284
	Otic	356
	Otto Versand	284, 233, 283
P	Pace	238
	Pacific	284, 209
	Packard Bell	238, 291
	Palladium	284
	Palsonic	284, 216
	Panama	276, 284
	Panasonic	009, 017, 036, 177, 181, 188, 192, 213, 218, 222, 235, 240, 270, 271, 283, 284, 268, 180, 269, 311, 316, 376, 384, 385
	Panavision	284
	Panda	276, 213, 283, 241, 280
	Pausa	276
	Paxonic	188, 237
	PCE	237, 192
	Penney	235, 188, 316, 284, 224, 213, 237, 192, 193, 177, 228
	Perdio	284
	Perfekt	284
	Petters	357
	Philco	005, 023, 030, 036, 079, 050, 085, 089, 101, 172, 184, 187, 188, 190, 284, 218, 238, 239, 252, 193, 299
	Philips	005, 017, 023, 030, 036, 050, 087, 088, 089, 101, 188, 193, 205, 213, 214, 217, 218, 221, 222, 223, 235, 238, 244, 276, 284, 290
	Phoenix	284
	Phonola	284
	Pilot	272, 288, 213, 237, 193, 241
	Pioneer	124, 142, 370, 415, 416, 272, 284, 319, 218, 211, 212, 310
	Plantron	276, 284
	Playsonic	284
	Polaroid	258, 249, 278, 291, 279, 353, 354, 292, 356, 357
	Poppy	276
	Portland	238, 184
	Powerpoint	284
	Precision	320, 239, 240
	Premier	276
	Price Club	237
	Prima	276, 242, 287, 288, 280, 293
	Princeton	186, 325
	Prism	213, 177
	Profex	276
	Profi	276
	Profitronic	284
	Proline	284
	Proscan	034, 044, 224, 282, 228, 229, 231
	Prosco	192
	Prosonic	284
	Protec	276, 284
	Protech	276, 284
	Proton	185, 023, 092, 276, 188, 193, 282
	Proview	356
	ProVision	284
	Pulsar	149, 244, 238, 193
	Pye	284
	Pymi	276
Q	Qingdao	213, 283, 280
	Quadral	213
	Quartz	182, 193
	Quasar	036, 213, 074, 276, 316, 177, 268, 249
	Quelle	272, 284
R	Rabbit	224
	Radio Shack	011, 044
	Radiola	284
	Radiomarelli	284
	RadioShack	188, 284, 224, 182, 191, 193, 239, 216
	Radiotone	276, 284
	RCA	034, 044, 130, 151, 152, 185, 188, 189, 193, 211, 222, 213, 218, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 235, 237, 238, 234, 302, 312
	Realistic	011, 181, 224, 182, 191, 193, 239
	Recor	284
	Rectiligne	284
	Redstar	284
	Reflex	284
	Relisys	249
	Remotec	284, 233, 190, 214, 177
	Revox	284
	RFT	284
	R-Line	284
	Roadstar	276, 284
	Rowa	276, 284, 285, 176, 280
	Runco	244, 288, 237, 321, 323
	Ruyi	280
S	Saba	177
	Saige	276, 280
	Saisho	027, 276, 272, 320
	Saivod	284
	Sampo	276, 188, 224, 238, 233, 191, 214, 193, 268, 186, 215, 205
	Samsung	034, 094, 053, 188, 189, 191, 192, 193, 218, 222, 224, 233, 237, 238, 240, 243, 244, 253, 254, 257, 260, 276, 280, 283, 284, 285, 300, 308, 316, 318, 382, 401
	Sanky	188, 237
	Sansei	238, 184
	Sansui	251, 188, 284, 237, 252, 241, 216, 172, 209
	Santon	276
	Sanyo	013, 021, 081, 096, 190, 191, 192, 214, 215, 218, 224, 235, 239, 245, 252, 276, 272, 284, 290, 319, 324, 327, 346, 384, 392, 393, 404
	Sanyong	284
	Sanyuan	276, 233, 280
	Saville	237
	SBR	222, 284
	Sceptre	349
	Schneider	222, 284, 216
	Scotch	193
	Scott	062, 188, 320, 193, 239, 240
	Sears	021, 023, 034, 041, 062, 073, 075, 173, 188, 191, 192, 193, 210, 213, 218, 214, 216, 224, 233, 235, 237, 240, 244, 284, 316, 327
	SEG	276, 284
	SEI	284, 320
	Sei-Sinudyne	284
	Semivox	239, 240, 252
	Semp	192, 203
	Sencora	276
	Sentra	316
	Serie Dorada	188, 192, 193, 239
	Serino	233
	Shancha	280
	Shanghai	276, 283, 280
	Shaofeng	190, 280
	Sharp	011, 013, 026, 099, 104, 173, 188, 218, 233, 234, 239, 268, 372, 373, 276, 294, 295, 296, 297, 298, 398, 402, 403
	Shen Ying	276, 238
	Shencai	276, 190
	Sheng Chia	276, 233, 240
	Shenyang	276, 280
	Sherwood	276
	Shintoshi	284
	Shivaki	284, 193
	Show	276
	Siam	284
	Siemens	013, 284, 190
	Siera	284
	Signature	045, 144, 188, 224, 233
	Signet	278
	Silva	284
	Silva Schneider	284
	Silvano	285
	Simpson	050, 272, 188, 193
	Singer	276, 284, 273, 238
	Sinudyne	284, 320
	SKY	284
	Skygiant	239
	Sky-North	284
	Skyworth	276, 284, 170, 280
	Sliding	249
	Soemtron	249
	Solar Drape	235
	Solavox	284
	Sole	329
	Songba	276
	Soniko	284
	Sonneclair	284
	Sonoko	276, 284
	Sontec	276, 284
	Sony	173, 182, 191, 193, 216, 235, 236, 244, 263, 268, 272, 284, **[374]***, 375, 399, 405, 406, 407, 368, 366
	Soundesign	030, 050, 062, 193, 239
	Soundwave	284
	Sova	364
	Sowa	213, 237, 238, 192, 193, 283
	Spectra	276
	Spectravision	192, 193
	Spectricon	276
	Spectroniq	356
	Squareview	214
	SR2000	191
	Ssangyong	214
	SSS	276
	Staksonic	239
	Standard	276
	Standard Component	276
	Starlite	276, 284, 239, 240
	Strato	276, 284
	Studio Experience	248
	Sunkai	249
	Sunstar	276, 284
	Sunwood	284
	Superscan	233, 337, 362
	Supersonic	276
	SuperTech	276, 284
	Supra	276, 193
	Supre-Macy	032
	Supreme	235, 193
	Sutron	276
	SV2000	218
	SVA	285, 170, 267, 249, 338, 339, 340
	Sylvania	005, 017, 023, 030, 079, 085, 089, 101, 188, 191, 193, 213, 214, 216, 218, 224, 235, 238, 284, 291, 362
	Symphonic	148, 235, 214, 193, 239, 216, 362
	Synco	235, 237, 238, 233, 193, 184
	Syntax	347, 350, 355
	Sysline	284
T	Tacico	276, 238, 193
	Tai Yi	276
	Taishan	276, 280
	Talent	193
	Tandy	233
	Tashiko	238, 319, 268
	Tatung	036, 124, 235, 276, 272, 284, 213, 218, 237, 191, 192, 201, 221, 205
	TCL	241
	Teac	276, 284, 191, 319, 214, 193, 296, 241, 215, 216
	Tec	276, 284
	Tech Line	284
	Technics	213, 218, 283, 177, 268
	Technovox	188
	Techview	335
	Techwood	213, 237, 177
	Teco	276, 213, 238, 233, 193
	Tedelex	276
	Teiron	276
	Teknika	030, 032, 034, 041, 144, 156, 218, 237, 238, 182, 193, 239, 252
	Telecolor	244
	Telecor	284
	Telefunken	284, 285, 253
	Telefusion	284
	Telegazi	284
	Telemeister	284
	Telesonic	284
	Telestar	276, 284
	Teletech	276, 284
	Teleview	284
	Tempest	276
	Tennessee	284
	Tensai	276, 284
	Tenson	276
	Tera	185, 188, 238, 282
	Tevion	284, 194, 356
	Texet	276
	ThemeScene	345
	Thomas	224, 193, 216
	Thomson	165, 166, 284, 224, 229
	Thorn	316, 284
	Tiane	233, 280
	TMK	320, 193, 239, 240
	TNCi	244
	Tobo	276, 170
	Tocom	192
	Tokai	276, 284
	Tokyo	316
	Tongtel	285

	Tophouse	239, 246
	Toshiba	034, 075, 094, 041, 182, 190, 191, 192, 199, 201, 202, 203, 204, 207, 209, 210, 237, 233, 268, 276, 272, 316, 330, 334, 351, 359, 365, 371, 390, 391
	Totevision	213
	Toyoda	276
	Toyomenka	193
	Trans Continens	284
	TRANS-continents	249
	Transonic	276, 284, 285
	Trio	356
	Triumph	284, 320
	Truetone	213, 177
	Tuntex	276, 188, 238
	TVS	252
U	Uher	284
	Ultra	238
	Ultravox	284
	Unic Line	284
	United	284, 285
	Universal	066, 088, 284, 224
	Universum	276, 272, 284, 319, 320
	Univox	284
V	V	337, 343, 215, 205
	V2max	249
	V7 Videoseven	349, 215
	Vector Research	188
	Vestel	284
	Vexa	276, 284
	Victor	173, 177, 268
	Video Concepts	016
	Videocon	284
	Videomac	276
	VideoSystem	284
	Vidikron	218
	Vidtech	193
	Viewsonic	336, 337, 343, 215
	Viking	032, 237
	Vision	284
	Vizio	337, 343, 215, 205, 360
	Vortec	284
	Voxson	284, 193
W	Waltham	284
	Wards	005, 011, 045, 030, 085, 088, 089, 101, 102, 148, 188, 191, 192, 193, 201, 210, 212, 213, 218, 224, 226, 228, 233, 235, 237, 239, 240, 244, 274, 284, 316
	Warumaia	185
	Watson	276, 284
	Waycon	192
	Wega	284
	Wegavox	276
	Weipai	276
	Welton	193
	Westinghouse	235, 184, 343, 250, 309, 367
	Wharfedale	284
	White Westinghouse	284, 240, 184, 252, 258, 250
	World	239, 240, 184, 252
	World-of-Vision	249, 309, 349
X	Xenius	185
	Xiahua	176, 280
	Xianghai	276
	Xiangyu	276
	Xihu	280
	Xingfu	276
	Xoro	049
	XR-1000	191, 214, 239
	Xrypton	284
Y	Yamaha	188, 268, 326, 331, 332
	Yamishi	284
	Yapshe	177
	Yingge	276
	Yokan	284
	Yoko	276, 284
	Yonggu	276
	Yorx	188
	Youlanasi	208
	Yousida	276
	Yuhang	276
Z	Zenith	140, 144, 149, 235, 244, 188, 284, 224, 238, 233, 190, 214, 193, 252, 254, 199, 351, 216, 172
	ZhuHai	276
	Zonda	276

DEVICE SELECT : DVD

DVD Player

A	Aiwa	002, 009
	Alba	017, 040
	Apex Digital	002, 040
B	Blaupunkt	040
	Bush	040
C	Clatronic	015
	Creative	001, 017
D	Daewoo	023, 114
	Denon	**[111]***, 112, 113, 114
	Dual	015
E	Emerson	015, 046
	Entivo	001, 017
F	Finlux	046
	Firstline	023
	Funai	015
G	Gateway	042, 043, 044, 045
	GE	038, 040
	General Electric	038, 040
	Go Video	010, 023, 040
	Goldstar	023, 046
	Gradiente	114
	Grundig	017
H	HITACHI	010
I	Integra	001
	Irradio	023
J	JVC	001, 006, 011, 017
K	Kenwood	114
	KLH	040
	Kloss	002
	Konka	012, 013
L	LG	023, 046
	Luxman	010
M	Magnasonic	015
	Magnavox	001, 015, 017
	Marantz	001, 015, 017
	Metz	003, 008
	Micromedia	001, 017
	Mitsubishi	004, 033
N	NEC	023
O	Optimus	003, 008
P	Panasonic	001, 008, 114
	Panda	040
	Philco	015
	Philips	001, 005, 015, 016, 017
	Pioneer	003, 008, 114
	Pye	017, 023
R	RadioShack	008
	RCA	008, 038, 040
	Realistic	008
	Rotel	006, 011
	Rowa	040
S	Samsung	010, 114
	Sanyo	015, 018, 037
	Schneider	017, 023
	Sharp	015
	Sherwood	040
	Sonic Blue	010, 023
	SONY	002, 010, 019
	SVA	040
	Sylvania	015
	Symphonic	015
T	Teac	008, 015, 040
	Technics	114
	Thomson	038
	Toshiba	001, 010, 017, 021
U	United	015
	Universum	023, 046
Y	Yamaha	016, 017, 114
Z	Zenith	001, 023, 046

CD Player

A	Aiwa	150, 201, 235, 243
B	Burmester	151
	Burmster	202
C	Carvery	150, 202, 203, 235
D	Denon	167, 189, 190, 191, 192, 222, 234, 244
E	Emerson	204, 205, 206, 207
F	Fisher	155, 203, 208, 209, 210
J	JVC	158, 173, 218, 219
K	Kenwood	155, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 211, 212, 213, 214, 217
M	Magnavox	150, 156, 206, 215, 235
	Marantz	150, 152, 153, 156, 163, 170, 216, 228, 235
	MCS	163, 216, 224
O	Onkyo	159, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 225, 227
	Optimus	151, 155, 158, 165, 172, 217, 220, 221, 223, 226
P	Philips	167, 214, 232, 233, 235
	Pioneer	158, 159, 160, 161, 206, 226, 230
S	Sears	206
	Sony	154, 155, 174, 175, 176, 223, 231
T	Teac	152, 153, 154, 202, 209, 228
	Technics	163, 171, 216, 229, 236
W	Wards	150, 155, 158, 172, 186, 235, 237
Y	Yamaha	154, 158, 164, 177, 187, 188, 238, 239, 240, 241
Z	Zenith	242

DEVICE SELECT : HDP

Blu-Ray Disc Player

D	Denon	038, 039, **[111]***
H	Hitachi	034, 035, 036
I	Integra	012
J	JVC	013, 014, 016, 017, 018, 019
L	LG	010
M	Marantz	025, 026
	Mitsubishi	023, 024
O	Onkyo	011, 012
P	Panasonic	001, 002, 003, 040, 041
	Philips	004
	Pioneer	005, 037
R	RCA	011
S	Samsung	006
	Sharp	031, 032, 033, 027, 028, 029, 030
	Sony	007, 008, 009, 015
T	Toshiba	011
Y	Yamaha	020, 021, 022

DEVICE SELECT : DVR

Digital Video Recorder

A	ALCO	011
	ATLM	010
F	Funai	035
H	Hitachi	031, 032, 033, 034, 036, 037
J	JVC	**[001]***, 002, 003, 004
M	Mitsubishi	038, 039
P	Panasonic	036, 037
	Pioneer	027, 028, 029, 030
S	SANYO	009
	Sharp	040, 041
	SONY	012, 023, 024, 025, 026
T	TOSHIBA	006, 007, 008, 042, 043
V	Victor	020, 021, 022, 040, 041
Y	YAMAHA	005

DEVICE SELECT : VCR

Video Cassette Recorder

A	Admiral	081
	Aiko	095
	Aiwa	009, 026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
	Alba	055
	Amstrad	009
	ASA	042
	Asha	087
	Audio Dynamic	005, 085
	Audiovox	088
B	Beaumark	087
	Broksonic	086, 093
C	Calix	088
	Candle	006, 087, 088, 089, 090
	Canon	049, 057
	Capehart	025, 055, 056, 071

	Carver	015
	CCE	095
	Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
	Craig	007, 087, 088, 091, 115
	Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 088, 091, 115
	Cybernex	087
D	Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
	Daytron	025, 055
	DBX	005, 085
	Dumont	053
	Dynatech	009
E	Electrohome	001, 088, 097
	Electrophonic	088
	Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
F	Flsher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 099, 115
G	GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
	Go Video	047, 048
	Goldstar	006, 012, 062, 088, 200
	Gradiente	094
	Grundig	042
H	Harley Davidson	094
	Harman Kardon	040, 062
	Hi-Q	091
	Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, 108, 109, 110, **[111]***
J	JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
	Jensen	013, 026
	JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
K	Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
	Kodak	088
L	Lloyd	009, 094
	LXI	088
M	Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
	Magnin	087
	Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
	Marta	088
	MEI	049
	Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
	Metz	123, 124, 125, 126, 127
	MGA	001, 017, 027, 041, 097
	MGN Technology	087
	Midland	011
	Minolta	013, 023
	Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 040, 041, 045, 097
	Montgornery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
	Motorola	081
	MTC	009, 087, 094
	Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
N	NAD	038
	NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
	Nikko	088
	Noblex	087
O	Optimus	081, 088
	Optonica	021
P	Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
	Pentax	009, 013, 023, 058, 090
	Perdio	009
	Philco	015, 016, 049
	Philips	015, 021, 042, 049, 105
	Pilot	088
	Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
	Portland	025, 055, 090
	Proscan	080, 063
	Pulsar	060
Q	Quartz	033, 034, 049
R	Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
	Radix	088
	Randex	088
	RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
	Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097 ,098
	Ricoh	055
S	Salora	033, 041
	Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
	Sanky	081
	Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
	Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
	SBR	042
	Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
	Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
	Sentra	055
	Sharp	001, 002, 021, 097
	Shogun	087
	Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
	STS	023
	Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
	Symphonic	009, 094
T	Tandy	009
	Tashiko	009, 088
	Tatung	004, 026, 030
	Teac	004, 009, 026, 094
	Technics	024, 049
	TMK	087, 092
	Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
	Totevision	007, 087, 088
U	Unirech	087
V	Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
	Victor	005, 045, 046, 085
	Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
	Videosonic	007, 087
W	Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
X	XR-1000	094
Y	Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Z	Zenith	060, 078, 079

DEVICE SELECT : SAT/CBL

Satellite Receiver

A	Alphastar	054
C	Chaparrali	035, 036, 150, 154, 155
D	DirecTV	**[095]***, 156, 157, 158, 162, 163, 166, 174, 176, 177, 179, 188, 189, 191, 193, 197, 198, 200, 202
	Dish Network System	164, 173, 194, 201
	Dishnet	053
	Drake	037, 038
E	Echostar Dish	062, 077, 095, 164, 168, 173, 187, 190, 194, 201
G	GE	048, 055, 056, 156, 157
	General Instruments	039, 040, 041
	Grundig	070, 071, 072, 073, 152, 167, 168, 171, 185
H	Hitachi	058, 059, 163, 166, 182, 183
	Hughes Networkr	063, 064, 065, 069, 163, 193, 200
J	JVC	077, 164, 201
K	Kathrein	074, 075, 076, 083, 152, 153, 192, 196
M	Magnavox	060, 160, 162
N	Nokia	070, 084, 085, 086, 161, 168, 181
P	Panasonic	091, 155, 159, 167, 186
	Philips	060, 150, 152, 153, 160, 162, 163, 164, 166, 060, 168, 172, 174, 178, 179, 193, 199, 200
	Primestar	051
	Proscan	048, 055, 056, 156, 157
R	RCA	048, 055, 056, 068, 151, 156, 157, 164, 169, 179, 185, 189, 193
	Realistic	042
S	Sierra I	036
	Sierra II	036
	Sierra III	036
	Sony	049, 067, 158, 167, 168, 195, 197, 198
	STS1	043
	STS3	045
	STS4	046
T	Technisat	077, 078, 079, 081, 082, 175, 180
	Toshiba	047, 050, 163, 165, 166, 184, 200
U	Uniden	061, 160, 162

Cable TV

A	ABC	006, 007, 008, 009, 118, 122
	Archer	010, 011, 122
C	Century	011, 118
	Citizen	011
	Colour Voice	012, 013
	Comtronic	014
E	Eastern	015
G	Garrard	011
	General Instrument	032, 108, 110, 111
	Goldstar	100
H	Hytex	006
J	Jasco	011
	Jerrold	007, 009, 032, 110, 111
M	Magnavox	018
	Motorola	110, 111, 113
O	Oak	006, 020, 101
P	Panasonic	001, 005, 100, 115, 116, 117, 118
	Philips	011, 012, 013, 018, 021, 129, 130, 131, 133, 134
	Pioneer	002, 003, 022, 100, 123, 126, 127, 128
R	RCA	029
	Regency	015
S	Samsung	014, 023, 100, 117, 119, 120
	Scientific Atlanta	004, 024, 025, 117, 118, 121, 122, 123, 136
	Signal	014
	SL Marx	014
	Sony	105, 132
	Starcom	009
	Stargate	014
T	Teleview	014
	Tocom	007
U	Unika	011
	United Artists	006
	Universal	010, 011
V	Viewstar	018, 104
Z	Zenith	027, 028, 117, 118, 125, 135

[ ]* ：お買い上げ時に設定されているプリセットコードです。

DEVICE SELECT : DVD

プリセットコード	111（初期設定）		112
DENON 製 DVD プレーヤー	DVD-900 DVD-700 DVD-1000 DVD-1400 DVD-1500 DVD-1710 DVD-1720 DVD-1730 DVD-1740 DVD-1910 DVD-1920 DVD-1930 DVD-1940 DVD-2200 DVD-2800 DVD-2800II	DVD-2900 DVD-2910 DVD-2930 DVD-3800 DVD-3910 DVD-3930 DVD-A11 DVD-A1XV DVD-A1	DVD-800 DVD-1600 DVD-2000 DVD-2500 DVD-3000 DVD-3300

DEVICE SELECT : HDP

プリセットコード	111（初期設定）
DENON 製 Blu-Ray Disc プレーヤー	DVD-1800BD DVD-2500BT DVD-3800BD DVD-A1UDCI

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川 1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30 〜 12：00、12：45 〜 17：30
（当社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　5411 10249 005DA